

北海道市営競馬組合
設立記念誌

ばんえい

NO. 19



目次

北海道市営競馬組合設立に当って	坂東 徹……………	1
北海道市営競馬組合 管理者	旭川市長	
北海道市営競馬組合の設立に寄せて	樋口久俊……………	2
北海道市営競馬組合設立に寄せて	農林水産省競馬監督課 課長	
北海道市営競馬組合設立に寄せて	北海道知事 横路孝弘……………	3
北海道市営競馬組合設立に寄せて	帯広市長 田本憲吾……………	4
北海道市営競馬組合設立を祝して	北見市長 久島 正……………	5
北海道市営競馬組合設立に寄せて	岩見沢市長 国兼孝治……………	6
北海道市営競馬組合設立に寄せて	北海道市営競馬組合議長 議長 嶺野 侑……………	8
北海道市営競馬組合設立に寄せて	地方競馬全国協会 会長 大場敏彦……………	9
北海道市営競馬組合設立に寄せて	全国公営競馬主催者協議会 会長 長洲 一二……………	10
北海道市営競馬組合設立を祝して	北海道ばんえい競馬馬主会 会長 片川勝博……………	11
北海道市営競馬組合設立に寄せて	北海道ばんえい競馬調騎会 会長 暗披孝治……………	12
ばんえい競馬35年・市営競馬協議会20年のあゆみ	……………	14
北海道市営競馬組合機関図	……………	20
昭和63年度成績	……………	21
マスコミに取り上げられたばんえい	……………	25
ばんえい便り	……………	33
昭和63年度種雄馬ランキング	……………	37
昭和63年度賞金受賞ランキング	……………	38
昭和63年度引退馬	……………	39
平成元年度市営競馬日程表	……………	46
平成元年度ホッカイドウ競馬日程表	……………	46



北海道市営競馬組合

設立に当って

北海道市営競馬組合管理者 旭川市長 坂東 徹



昭和二年に地方競馬の名称が生まれてから激動の昭和と言われる時代に、幾多の変遷を経て今日にいたり、期せずして平成元年という新しい時代を迎えるこの年に、ばんえい競馬を施行する旭川市、帯広市、北見市及び岩見沢市にとりまして、永年の懸案でもありました北海道市営競馬組合が設立されましたことは、関係者ともども誠に喜ばしい限りであります。

戦後の昭和二十八年から、ばんえい競馬が市営競馬として認められ、爾来多くのファンに支えられながら北海道の馬産振興は勿論のこと地域

振興のほか、自治体財政にも貢献しながら発展を続けて参りました。

また、昭和四十三年二月には、社会の進展に伴う地方競馬運営に配慮ると同時に、将来に向けての経営基盤の確立をはかるための組織一元化の足固めとして、四市間で競馬専門職員の組織化を目的に北海道市営競馬協議会を設置し、さらに執行体制を強化するため、昭和四十六年と、昭和五十年に、一部事務組合化の検討に入った経過がありますが、諸般の事情から実現に年月を要したところであります。

しかし、昭和六十年度において、四市合せて収益が一億円足らずに留まるという、ばんえい競馬にとりまして危機的状態となり、翌昭和六十年年度には新たためこの危機打開のためにプロジェクトを設置し、本格的な一元化に向けての取組みを開始し、種々の問題解決に努力し、このたび北海道市営競馬組合が誕生しま

したことは、設立に当たった関係各位をはじめ、ご指導ご協力を賜りました、関係者の皆様に、心から感謝の意を表したいと思います。

競馬事業は、昭和五十六年度以降続いておりました発売金額の落ち込み傾向も、昭和六十一年度からの景気の回復安定と各主催者の努力もあって、徐々に上昇の気運にあります。国内外の社会経済情勢の変化や余暇活動における住民ニーズの多様化、供給側の多極化が一層進行する中において、競馬事業を取り巻く環境は厳しいものがあります。

このことを踏まえ、組合化を契機として初心にかえり世論の期待に的確に応えていかなければならないと思っております。

また、ばんえい競馬は、世界に唯一と言われている競技であり、加えて寒い北国の自然の中で人馬一体となつて開拓の歴史とともに生まれ育てられてきた伝統を持つ貴重な文化遺産でもあります。

今後も主催関係者一丸となつて本事業の振興と経営の健全化に努めると同時に、大衆に愛され親しまれる、ばんえい競馬として、しっかりと守り育てていかなければならないと考えている次第であります。

最後に、関係各位のより一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様方のますますのご健勝をご祈念申し上げます。北海道市営組合設立に当たつてのご挨拶といたします。



北海道市営競馬組合

設立に寄せて

農林水産省競馬監督課 課長 樋口 久俊



られた結果であるとあらためて敬意を表する次第です。

ばんえい競馬におきましても、昭和六十年度を底に売上げが上昇しており、六十三年度にはピーク時の九十八パーセントに達するまでの発売成績となっております。これには、四市競馬場をネットワーク化しての相互場外発売の開始（五十九年）、相互場外発売に対する映像伝送の開始（六十二年）、旭川レーシングセンター（六十二年）、岩見沢ハロンズ（六十三年）での場外発売の開始など、場外発売の充実拡大に力を注いでこられたことが大きな原動力になったものと拝察しますし、ばんえい史上初めて賞金獲得額が一億円を越えたキングロー号の活躍、金山騎手の千五百勝達成など明るい話題に恵まれたこともばんえい競馬の盛り上げに貢献したものと思っております。

ばんえい競馬関係者の長年の願いでありました「北海道市営競馬組合」が設立のはこびとなりましたことに、心からお慶び申し上げます。ご承知の通り、ばんえい競馬を含めて地方競馬全体の最近における開催成績は、一時の低迷期を脱し、順調に伸びております。これは、経済的好況に支えられた面もありますが、地方競馬の各主催者が、場外発売所の設置、観覧席等場内施設の改善、交流競走等各種イベントの実施、暴力団やノミ屋の排除による競場所のイメージアップ化など各般の競馬振興対策を実施して、ファン層の拡大競馬場へのファンの誘致に務めて来

関係する四市が一致協力して一部事務組合を設立し、執行体制を強化して将来の一層の発展に備えられることは大変意義深いことであると思えます。

農林水産省と致しましても、昭和三十六年の公営競技の制度と今後の基本の方策に関する公営競技調査会の答申（長沼答申）の中で、施行体制として一部事務組合を結成することが望ましい、と指摘されたのを受け、昭和三十七年に各主催者あての農林事務次官通達において、公正確保と施行者の責任体制の明確化を図るため、各都道府県単位又は競馬場単位の一部事務組合の結成をできるだけ早く行うよう通知しました。これに従って全国各地で組合設立の動きがみられ、これまでに十三の組合が結成されておりますが、ばんえい競馬の四市をはじめ幾つかの主催者においては継続検討の状態になっておりました。

ばんえい競馬を主催する四市においては、長期にわたる粘り強い調整の結果、この日を迎えられたわけですが、おそらくその間では外部の者では計り知れない関係者の努力と熱心な取り組みがあったものと推察しております。

いずれにしましても、長年の懸案が解決されて組合が結成された訳ですから、四市が組合の下に結集されて、ばんえい競馬がファンに最も歓迎されるような日程を組み、競馬場の違いを越えて統一の方針の下で公正競馬の確保を図り、四市が主催していたことに伴う経営の非効率部分を排除することにより、ばんえい競馬の益々の発展に邁進して頂きたいと思えます。そして、組合による競馬主催が軌道に乗りましたなら、全国からの観光客も迎えて北海道の夏の夜長を楽しむナイト競馬や制約の多い雪国の冬のレジャーとしての冬期競馬の開催などにも取り組まれて、更なる発展に備えて頂きたいと思っております。

スピード感あふれる競馬にも味がありますが、何しろ「馬力」はパワーの単位でもあり、力あふれる馬の姿は、違った印象で魅了するものがあるはずです。

最後になりましたが、北海道市営競馬組合の設立にご尽力された関係者の皆様方のご労苦に敬意を表しますとともに、ばんえい競馬の今後の発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

北海道市営競馬組合

設立に寄せて



北海道知事 横路 孝弘

この度、ばんえい競馬を主催する四市が協調して、市営競馬のなお一層の経営基盤の確立と運営の合理化

を目指し、北海道市営競馬組合を設立されましたことを心からお慶び申し上げます。

ばんえい競馬は、本道開拓の当時から五穀豊じょうを願う祭典など年中行事にそれぞれの家の力持ちの代表として自慢の馬が参加して行われた「祭典ばんば」にその源があると

言われるように、北海道の開拓の歴史とともに歩み、今日の姿にまで成長して参りました。

運ぶなど人間生活になくはならぬ大切な働き手として信頼のできる家族の一員でもありました。「祭典ばんば」は開拓当時の様子を今に伝える行事の一つですが、満身の力をふりしぼり、そりを引く姿に家族や見物の人々が歓喜して応援している光景は当時も今も変わらないと思います。

昭和二十三年に今の競馬法が公布され、国や都道府県が主催することとなったため、道が平地及びばんえい競馬を馬匹組合連合会から引き継いで実施することとなりました。その後、昭和二十六年の法律改正によって競馬場のある市町村も行うことが出来るようになったことから、昭和二十八年に旭川、帯広、北見、岩見沢の四市が競馬開催市として指定を受け、ここに現在の市営ばんえい競馬が発足したのであります。

この四市によって本格的に行われるようになったのは、道がばんえい競馬を中止した昭和四十一年からであ

ります。

ばんえい競馬はこのような北海道の人々の生活から生まれた身近な楽しみとして世界でも例のない公営競技の一つときて全国に多くのファンを持ち、海外にも紹介されるようになりましたが、市営ばんえい競馬のこれまでの足跡を顧みますと、その運営は平担な道ばかりではなかったことが伺えます。特に、北国のレクリエーション「ばんば」から近代スポーツ「ばんえい競馬」への脱皮は、緊急で重要な課題でありました。平地競馬には歴史によって積み上げられた近代競馬の運営手法が既にありましたが、ばんえい競馬にはそれがなく零からの模索が始まり、ルールに基づいた公正な競馬運営方法の確立をはじめとして競走用具・施設やその運用技術の研究開発、トータリーゼーターシステムを率先導入して

また、四市は、昭和四十三年、北海道市営競馬協議会を設立し、競馬運営の共同化と一層の経営合理化を目指して将来を担う人材の養成を進めるなど、執行体制の強化に努めてこられました。北海道市営競馬組合は、このような周到な準備と四市の協調のもとにこの程設立されたものであり、これまでの関係者のご努力に対し深く敬意を表する次第であります。

の業務運営の合理化、競走用重挽馬資源の確保等の諸対策に関係者一丸となって取り組みました。このように関係の皆様が邁進して、今日の「ばんえい競馬」をつくりあげてきた道のりを顧りみると、ばんえい競馬が持っている粘り強さを見る思いがいたしますし、その業績は今後とも高く評価を受けることと思

近年レジャーの多様化や市民の余暇利用方法の多種多様化によって、競馬を取りまく環境はまことに厳しいものがありますが、組合の皆様が企業意識に徹し、専門的技能を發揮してファンの皆様に喜ばれる楽しい競技を提供することによって、ばんえい競馬が大衆の健全な娯楽として定着し、なお一層の発展が期されるものと確信いたします。

組合の関係者の皆様方には、北の大地に根ざした伝統ある「ばんえい競馬」の意義を引き継がれ、新たな発展のために御尽力いただくことをご期待申し上げ、併せて貴組合の発足を契機として、ばんえい競馬が市民の皆様に一層愛され親しまれるものとなりますことを祈念申し上げます。

北海道市営競馬組合

設立によせて



帯広市長 田本 憲吾

ヤーし設立の日を迎えることができましたことは、長いばんえい競馬はじまって以来の画期的な事であり、感慨ひとしおのものがありません。

北海道市営競馬組合の設立にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

この度、ばんえい競馬の効率的な運用を図るため、北海道、各市議会、関係機関をはじめ、馬主会、調騎会の皆様方の温かいご指導とご協力のもとに、北海道市営競馬組合を設立することができましたことは誠に喜びに堪えない次第であり、関係各位の並々ならぬご努力に対しまして深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

競馬の一部事務組合化は、四市の長年の懸案であり、各市の競馬場の使用形態、収益金の配分、組合事務所の位置等様々な解決すべき課題を抱えておりましたが、四市の関係者が真剣に論議を重ね、数々の紆余曲折を経ながら、これらの難問をクリ

が増えていくことにあると存じ、今後さらにファン層が広がりますことを願っております。

さて、馬の国十勝・帯広の競馬について振り返ってみますと、明治二十七年九月二十三、二十四日の二日間帯広神社のご遷座を記念して開催された祭礼余興がはじまりといわれ、市街地の発生と時を同じくして始まっております。当時は、手頃な直線コースを選んで走るといふ単純なものであったようでありました。

当初、村有志、各競馬会、牛馬組合等が主催してきた競馬も明治四十四年に馬政局から補助金を得て第一回の地方公認競馬「十勝競馬」が開催されました。その後、東部地区の発展に伴い、昭和七年に現在地に移転千六百メートルの走路をもつ競馬場、関係施設が完成、名称も、「帯広競馬」と改称され、以後順調に発展を続けてきました。

この間、大正十二年には競馬法がはじめて公布され、近代競馬の幕開けを迎えるなど今日の競馬の基礎が築かれてきたのであります。戦後は、十勝馬匹組合が昭和二十二年に戦後第一回目の競馬を開催しましたが、同二十三年に競馬法が全面改正となり、開催権が地方自治体に移ったこ

とによって、帯広市が同二十八年から「市営競馬」として今日まで開催してきたものであります。

十勝は古くから速歩馬（トロツタ一種）の主産地として知られ、帯広の競馬では速歩レースに人気が集まったようでありました。しかし、それにもまして人気があったのはばんえい競馬でした。これはやはり、十勝の開拓において共に苦勞してきた使役馬としての愛着感、それ等見知った馬が力自慢を競うことの親近感、魅せられるダイナミックな力強さ、一番の力持はどの馬かといったような馬を視ることの楽しさ、これ等が一体となつてばんえい競馬の魅力となつていったのではないかと思うのであります。

このように開拓の歴史とともに歩んできたばんえい競馬をさらに発展強化し、後世に伝え残していくためにも、今後とも四市が互いに手を取り合つて協力していかなければならないと考えている所でありました。

終りに、北海道市営競馬組合のいっそうの発展を心から祈念申し上げますとともに、旧に倍しまして関係する皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。挨拶といたします。

北海道市営競馬組合

設立を祝して

北見市長 久島 正



北海道市営競馬組合設立に当り、農林水産省はじめとして北海道並びに関係諸機関、諸団体に対して謹んで今日までのご指導ご協力を深く感謝申し上げます。

北海道市営競馬組合設立につきましては、昭和三十六年七月に出された国の諮問機関であります公営競技調査会の答申に基づく農水省畜産局長の指導に端を発しますが、昭和四十一年四月に四市長連名で北海道知事に対し事務組合設立（道営競馬を含めた一部事務組合）の陳情をおこなったのが始まりでした。その後昭

和四十三年二月には、北海道市営競馬協議会が四市により設立され、この協議会が今回発足しました一部事務組合の母体となりました。

組合設立までには紆余曲折がありまして、四市の再三にわたる協議がなされて参ったところでありますが、この経過を踏え昭和六十一年四月に一部事務組合設立のためのプロジェクトチームが結成されました。その後幾多の諸問題がありました。ようやく平成元年一月十三日に北海道市営競馬組合の設立許可を受ける運びとなったのであります。

昭和二十八年の市営競馬発足以来三十六年間にわたり四主催者が知恵をしぼり、関係各位並びに馬主会、調騎会、ファンの皆様方のご協力ご支援により築かれましたばんえい競馬が、北海道市営競馬組合に引き継がれますが、構成市の一員として万感胸に迫るものがあります。

顧みますと、北見競馬は農耕馬による祭典競馬として行なわれていたのがそもその始まりですが、公的には昭和七年秋に北見畜産組合主催により行なわれたのが北見競馬の始まりでした。

戦後二十二年九月には、北海道馬匹組合連合会主催による第一回北見競馬が開催され、翌二十三年には主催者が北海道となり、道営第一回北見競馬が開催され、初めて連勝式投票券が発売された年でもありました。

昭和二十六年は、道営北見競馬に輓えい競馬が誕生し、現在の輓えい競馬の基礎が築かれた記念すべき年でした。翌々年の二十八年六月二十七日には、市民の念願であった市営競馬が認可されました。四市の市営競馬認可に当っては、四市一丸となり、面目、利害相反することの大きい道畜産課、地方課の難色を突破して知事の同意書を取り付け、道の海野幸雄畜産課次長の上京陳情により農林省の賛同を得、最も難関とされた自治庁の承諾を受けたと記録に残っておりますが、今日よりまだまだ交通の便や、通信事情の悪い時期によく市営競馬を認可していたのだらうと、新ためて市民に貴重な財産を残してくれた諸先輩のご労苦に対

し深く感謝申し上げます。
平成元年度からは、諸先輩が残してくれた大きな財産を資本として、主催者が一本化したことによるメリツトを大いに発揮してもらい、積極的に大胆な発想による競馬運営を期待しております。

地方競馬の目的は、第一に馬産の振興であり、第二には質の高いレジャーの提供であると思いますが、馬産国北海道は、ばんえい競馬が担っていることを誇りとして、日本はもとより、世界のばんえい競馬として名実ともに発展されますことを念願してお祝の言葉といたします。



北海道市営競馬組合

設立に寄せて

岩見沢市長 国兼 孝治



業として発展して参りました当市は、近年、観光都市岩見沢へむけて着々とその布石を致しております。昭和四十七年から着手してまいりました百八十三ヘクタールの広大な敷地を有するいわみざわ公園におきまして、

昭和六十一年には「北海道21世紀博覧会」を開催、昨年は、日中友好交流の一端として「金絲猴公開展」を開催するなど、各種イベントを企画し、観光都市にむけての基盤造りを進めております。又、郊外には工業団地を造成して企業の誘致を推進し、あるいは、中心商店街の再開発も昨年は、市の室内公園を有する再開発ビル「岩見沢ポルタ」がオープンされるなど、まちの活性化も急速に進んでおります。

北海道開拓の歴史の中で生まれ、その歴史とともに育ち、世界にも他に例を見ない「ばんえい競馬」は、将来に大きな展望をもって一部事務組合がその運営を行なうことと相成り、このたび北海道市営競馬組合の誕生を見たことは、今日まで競馬の発展に情熱を持ってきた者として心からうれしく思っております。

当市における競馬の発祥は、明治二十四年に祭典奉納競馬として端を発し、馬事振興はもとより、健全娯楽として今日のばんえい競馬の基を築いたのであります。



市営ばんえい競馬は、競馬法のもとに昭和二十八年から開催して以来、三十六年の永きに亘り、観光と産業に貢献しながら幾多の変遷を経て参りました。その間、台風による競馬場施設の倒壊、あるいは競走の着順を巡る紛争等々、多くの苦難にも直面して参りました。しかし、年々増え続ける競馬ファンに対しまして、公正競馬の確保と施設の充実を図り、近代競馬へのステップとして、昭和四十年、現在地に新競馬場を完成し、又、昭和四十三年には、ばんえい競馬四主権市による競馬専門職員養成と派遣を目的とした組織として、北海道市営競馬協議会を発足し、執行体制の強化を図つたのであります。

又、昭和四十五年には五千人収容の総合スタンドも完成に至りました。その後もレジャーとして多くのファンに愛好され、競馬場への路々は車の渋滞が延々と続くまでに至つたのであります。



昭和五十一年には総合スタンドを増築し、更には、道内では札幌競馬場に次いで、昭和五十二年にトータリゼータシステムを導入いたしました。発売窓口の緩和と施設の充実を図りながらファンサービスに努め、近代競馬の運営へと大きく変貌を遂

げて参りました。

加えて、発売成績におきましても年々上昇を続け、昭和五十五年度には、五開催三十日間で八十億を超えるという売上げがありました。しかしながらこの年をピークに、経済不況とレジャーの多様化など社会情勢の変化により、今まで経験することのなかった入場者の減、発売成績の下降をたどるという厳しい運営を強いられたのであります。

この低迷する競馬事業の危機を打破すべくばんえい競馬の四主催市が一丸となって検討を重ねた結果、フヤンのニーズに応えるべく施策の一つとして、各々の競馬場を結ぶ相互場外発売に踏み切ったのであります。加えて中央競馬会釧路場外発売所の新設に伴い、ばんえい競馬におきましても、新設ファン開拓のため釧路場外発売所を開設し、更に昭和六十三年には、市内場外発売所として「ハロンズ岩見沢」を開設したのであります。そのことが効を奏し、昭和六十一年度からは、年毎に前年を上回る好成績を示し、上昇の兆しが見え始めたところであります。



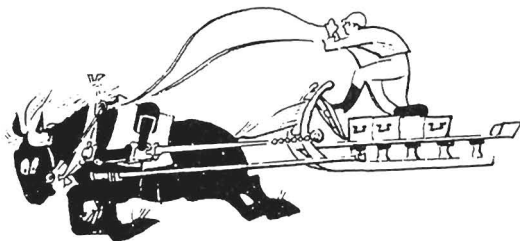
しかしながら今日のばんえい競馬は、上昇気運にあるといいながらも、めまぐるしい社会情勢の変化に対応する運営が強いられる厳しい現況にあります。この様な面から各々の四

主催市間がそれぞれに運営して参りました競馬事業は、共同事務の処理を目的として、このたびの一部事務組合の設立に至ったのであります。

したがいまして、昭和六十三年度は、当市が主催する最後のばんえい競馬

でありこれを無事終了させて幕を閉じたのであります。しかしながら北海道における歴史的な文化資産として、広く道民にも愛され親しまれてきたこの「ばんえい競馬」を、永く後世に引き継ぐことがこれからの私共の使命と考えているところでもあります。

今後は、事務事業を一元化するこ
とによつて経費の節減を図りながら
執行体制の強化や新しい事業の拡大
等、より効率的な要素を増大させ、
将来にむけて安定した運営基盤が確
立できるものと確信をしております。
終りになりましたがこのたびの北
海道市営競馬組合の設立にあたり、
ご尽力いただきました農林水産省を
初め、関係各位に深く敬意を表する
と共に、ばんえい競馬が更に大きく
強く発展されますことを重ねて心か
らご期待申し上げます。



北海道市営競馬組合

設立に寄せて

北海道市営競馬組合議会議長 嶺野 侑



道内のばんえい競馬を主催する旭川、帯広、北見、岩見沢の四市が、平成元年を期し、北海道市営競馬組合を設立する運びとなったことは、誠に画期的なできごとであり、心からお慶び申し上げます。ここにこぎつけるまでの関係各位のご労苦に深く感謝の意を表します。

あたかも今年には競馬法が公布されて四十一年目、北海道の開拓歴史と共に馬産振興と道民のレジャーという役割りを果たしながら全国唯一の公営競技として発展をしてきた足跡を振り返る時、感慨ひとしおのものがあります。

を実施したところ、場外発売所での発売額が大きく伸び、旭川レーシングセンター、ハロンズ岩見沢の相次ぐ開設が効を奏したことがあげられます。

このような集積のうえに、新しい時代に対応する競馬事業の飛躍を目ざし、組合化の準備が進められ、四市はそれぞれ独自の競馬を廃止、ここによりやく一本化が実現したものであります。

いまやばんえい競馬は、大衆娯楽として定着し、人と馬とのふれ合い、人馬一体の迫力と力量感あふれるレースは、根強いファンの信頼と魅力を高めておりますが、今後、組合運営に移管したとはいえ、その前途は決して担々たるものではありません。全国的に組合営の競馬事業が、必ずしも成功例ばかりではないことに思いをいたす時、独占的権益にあぐらをかいて企業努力を怠れば、四市の財政への貢献はもとより、競馬事業の目的達成すらも危うくなる不安がないとは、いい切れるものではありません。

そのためには、本組合を構成する四市の協力一致の体制こそが求められるものであり、一本化による経営上のメリットを最大限に追究しながら、積極的な努力を傾注する必要性を痛感するのであります。四市の中には施設の改善を初め、それぞれ多くの問題点を抱えておりますが、組合の財務体質、財政基盤の強化も大きな課題といえましよう。

すでに平成元年度予算では、冬競馬の開催について調査費が計上されておりますが、夏の夜長を活用するためのナイター競馬の実施、各競馬場ごとの開催時期を固定化しての本州方面の観光誘致、あるいは道央での場外発売所の開設など、新たな構想が浮かびあがっております。

北海道市営競馬組合の設立をきっかけとして管理者、議会がともに両輪となって、競馬事業の発展のために、一層の努力を重ねることをお誓いすると共に、組合設立に当たりご指導をいただいた農林水産省、道など関係機関のみなさまに深く感謝を申し上げます。

北海道市営競馬組合

設立に寄せて

地方競馬全国協会会長 大場 敏彦



このたびの北海道市営競馬組合の設立、誠におめでたく心からお慶び申し上げます。

旭川、帯広、北見、岩見沢の四市並びに北海道市営競馬協議会を始めとするばんえい競馬の関係者の皆様方には、永年の懸案でございました四市組合の設立の日を迎え、感慨もひとしおではないかと御推察申し上げます。

げますとともに、皆様方のこれまでの並々なぬ御苦労と熱意に対して深く敬意を表する次第でございます。最近の地方競馬の状況につきましては、経済好況の順風を受けて、全般におおむね順調に推移いたしております。

しかしながら、近年における地方競馬の売得金の伸びは、一面では、競馬ファン一人当たりの購買額の増加によるところも大きく、競馬場への入場者数は横ばい又は微減となっておりまして、景気の動向いかによっては、昭和五十年代後半の苦い経験を再現しかねないとも限りません。

したがって、今こそ、景気の動向にも左右されない強固な経営の基盤を築くことが必要であり、昨今の情勢は各主催者の個々の努力と合わせ

て、自己の領域を超えた複数の主催者の協力による広域的な振興策の推進が最も重要なものとされております。

このような時期に、また、平成元年の新しい年に、四市による一部事務組合が設立されましたことは、誠に時宜を得たものと心からお慶び申し上げます。

地方競馬全国協会といたしまして、競馬の公正の確保と円滑な推進を図ることを目的として、当協会発足以来、種々御協力申し上げて参りましたが、別途、畜産振興補助事業の一環としても、仏国等からの種雄馬の導入や繁殖奨励費等の補助、畜産物フェア等を実施し、ばんえい競馬の発展に微力を尽しているところでございます。

ばんえい競馬の今日の隆盛は、北海道開拓の歴史として、また、北海道独自の風物詩として、道民に古くから親しまれてきたこともございませうが、ひとえに、御関係の皆様方が豊かな経験の中で、英知を結集され、軽種のスピード競走と異った力量感のあふれる重種の本質を引き出し、魅力あふれるレースに仕立て上げていることだと思えます。

ばんえい競馬におかけましては、

四市間相互のきずなが強く、他にさきがけて早くから場間場外ネットワークを整備されますとともに、旭川レーシングセンター並びにハロンズ岩見沢など最新の場外施設を設置され、数々の振興策に取り組まれておられるその積極的な姿勢には、常々敬服している次第でございます。

今後は、一部事務組合の結成を機に、経営の一層の合理化とナイター競馬の開催等新たなる振興策を樹立されまして、経営の基盤を確固たるものにされますとともに、ばんえい競馬が世界に比類なき勇壮なブラッド（血統）スポーツとして、今後ますます発展されますことをお祈りいたします。お祝いの言葉といたします。

北海道市営競馬組合

設立に寄せて

全国公営競馬主催者協議会会長 長洲 一二一



北海道市営競馬組合の設立を心からお慶び申し上げます。

ここに組合設立の記念誌を発刊されるにあたり一言お祝を申し上げます。

ばんえい競走は、北海道の開拓の歴史とともに、厳しい生活環境の中から庶民の娯楽として各地で行われていた「祭ばんば」が始まりと聞いております。

農耕、運搬の主役として活躍していた逞しい馬が一トン余りの轡を轆き、人馬一体となって競い合う勇壮な姿は、雄大な北海道の自然と文化を象徴するにふさわしい力の競技でありまして、今日なお、道内各地に

おいて、「祭典ばんば」として続けられております。

昭和23年9月に、現行競馬法が制定され地方競馬の開催権が都道府県と災害市の地方公共団体へ移管され、『ばんえい競馬』は北海道営として引継がれましたが、昭和26年の競馬法一部改正により戦災、災害市に加え地方競馬場の所在する市町村も競馬開催が可能となったことから、28年には旭川市、帯広市、北見市、岩見沢市が、それぞれ開催の指定を受け、市営競馬としての『ばんえい競馬』が始まりました。発足当初は、平地競走と併せてばんえい競走を実施されておりましたが、昭和37年の帯広市の開催を最後に、各市とも「ばんえい競走」のみを開催し、今日に至っております。

戦後の激動する世相とともに歩んでこられた『ばんえい競馬』は、発足当初から競技の運営はもとより、事業としての経営そのものも非常に

厳しい環境下におかれ、その後も幾多の容易ならざる事態に直面されてこられました。

各市におかれましては、その都度、歴代の市長さんを始め関係各位が、懸命なご努力を重ね、競馬の公正確保はもとより、施設、環境の改善、馬資源の確保等、競馬の近代化に努めてこられ、昭和43年には、一部事務組合結成のための足がかりとして、四市の連帯協調を図り、円滑な競馬運営の発展を期すために「北海道市営競馬協議会」を設立されました。

そうした苦難の道を幾度となく乗り越え、ばんえい競馬の礎を築かれ、今日では広く大衆の健全娯楽として定着し、その収益は各市の財政運営に重要な役割を果されておりますことは、関係各位の並々ならぬご努力の結晶であり、深甚なる敬意を表する次第です。

特に昭和50年代半ばを境に、全公営競技が日本経済の長期低迷とレジヤの多様化等による社会情勢の変化といった影響を受け、入場人員と売上金額の減少傾向が続き、事業の経営はかつてない厳しい情勢におかれまして、地方競馬もまさに憂慮すべき事態にたたえられました。

北海道内におかれましては各市が

一体となって経営の合理化を図るとともに、数々の振興策を実施されましたが、中でもいち早く場外発売の重要性を認識されて、次々に場間場外発売を開始し、専用場外発売所の開発にも力をそがれまして、今日多大な成果を上げておられますことは、誠に同慶にたえません。

この度、これまでの経緯を踏え、旭川、帯広、北見、岩見沢の四市が、共同体として、永年の懸案となっておりました一部事務組合を結成され、施行体制の一元化を図られましたことは、誠に意義が深く『ばんえい競馬』の益々の繁栄が期待される次第です。

今後は、北海道市営競馬組合を中心にして、関係各位が一丸となって、諸先輩がたが、永年に亘り築いてこられた世界に類例のない『ばんえい競走』を守り、更にファンの期待に応え親しまれる『ばんえい競馬』へとはぐくまれ、地方財政への寄与を通じて、住民福祉の向上に一層貢献されますよう期待いたしますのであります。

組合設立にあたり、関係各位のご健闘と『ばんえい競馬』の益々の躍進を心から祈念いたしまして、お祝の言葉といたします。

北海道市営競馬組合

設立を祝して

北海道ばんえい競馬馬主会会長 片川 勝博



した農村娯楽の一つとして祭典等から生れ、競走意識がたかまるにつれ発展してきたものと思っております。

このばんえい競馬は、昭和二十二年競馬法に基づき馬匹組合主催で実施されて以来、昭和二十八年四市で開催されるようになり、今日の基礎となったものであります。

このたび、北海道市営競馬組合が設立され平成元年の新しい年を迎えた四月一日から、ばんえい競馬が市営競馬組合のもとで発展的に統一実施されますことは誠に意義深く、心からお喜びとお祝い申し上げます。

願ひみますと、今日のばんえい競馬は、北海道の地で開拓の原動力として活躍した農耕馬が自然を背景と

その後、昭和三十七年地方競馬全国協会が設立され、地方競馬制度が全国統一実施され競馬の近代化がはかられてきました。これと同時に本会が設立され一昨年で二十五周年を迎え記念式典を催すことができましたのは、今日まで御指導をいただきました四市関係者及び、ばんえい競馬に係る方々の賜ものこの機会をおかりし改めて厚くお礼申し上げます。

主催市は昭和四十三年北海道市営競馬協議会を設立し業務の専門化、競技方法の改善、競馬場施設の改善

をはかる中で、馬主会調騎会に対しても目的達成のため適切な御指導に預りました。この様な中で、私共も御意見を申しあげ改善をはかつていただいた事項も数多くございます。

経済不況等の影響が多い競馬事業は昭和五十六年頃より発売額は下降を辿り、この様な時期に主催者は開催増をはかるなど苦しい対応であったと思えます。近年では相互場外発売場の開設に伴って映像電送設備を導入し、ファンサービス機能をたかめ事業の充実がはかられて参りました。この様な時節であっても主催市の皆様は、総力結果の運営努力をされ組合設立に向け御努力されましたが、一時は設立の影も薄れそうした時期もあつた様に思われますが常に目的にむかつての御努力が今日を得たことと敬意を表するものであります。

どうやらばんえい競馬の発売額も一昨年頃より不況脱出と共に上昇機運がみえて参り、喜ばしく御同慶の極みであります。今後、馬主会は産業用馬振興と併せ、健全な大衆レジャーとして本来の使命に向つて努力、御協力申しあげる所存でありますので益々の御指導、御支援をお願い申し上げます。

市営競馬組合は名実共にばんえい

競馬が一本化された公営競馬として充実強化、ファンに親しまれ、公営企業本来の目的達成のため平成元年を期して発足施行されますことを、馬主会々員と共に祝福し、改めてお喜び申し上げます。

関係各位の御健勝を心から祈り、粗辞ではございますが、組合設立のお祝の御挨拶とさせていただきます。



北海道市営競馬組合

設立に寄せて

北海道ばんえい競馬調騎会会長

晴披 孝治



進められ、今日の近代化施設になったものであります。特に近年では場外発売場の創設、映像電送の導入等によって一層ファンに親しまれる競馬となりました。

ばんえい競馬は世界で唯一の競技であり、今では諸外国からも視察におとづれるようになりました。ばんえい競馬は平地競走と違い重量物を引く櫓も頑強複雑、用具も多様であり、事故防止は勿論のこと、満が一、

不公正な競技が生ずると米場のファンに多大な迷惑を及ぼすばかりでなく、競場を実施する主催者は大変な事態となります。私達既舎関係者は主催者の適切な指導のもとに常に公正競技が行なわれるよう細心の注意と努力を払い参加させて戴いております。

ばんえい競馬が発展するにつれ、開催日数も増え、年間一三〇日以上、競馬に従事する既舎関係者はおよそ三〇〇人、競走馬六〇〇頭以上が競馬場内で居居して居りますので、年間多少の労働災害、馬の事故も発生して居りますが、ばんえい競馬では大きな人身事故が生じてないのが幸であります。ばんえい競技が改善され競馬場が整備充実されると共に私達

融和をはかり、事故馬、人身事故の防止対策を進めておりますが、市営競馬組合が設立されたのを機として更に事故防止と職場環境の改善に努め、心を締め公正競馬に寄与して参りますので一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

ばんえい競馬の売上げは市営競馬協議会が設立された昭和四十三年頃より上昇を続け、昭和五十一年には二六八億円の売上げに成長を遂げましたが、その後経済不況の風に見舞われ下降を辿りつつありましたが、主催者の御努力により開催回数を増すなどの経営努力と景気の回復も伴って昭和六十二年頃より再び上昇をみ、昭和六十三年売上げは二六四億と昭和五十五年に近づきました。この間における四市競馬関係者、市営競馬協議会の皆様方の御努力御苦労に改めて敬意と感謝を申しあげる次第であります。

この度設立されました市営競馬組合関係の皆様方には今後、御苦労が多い事と存じますが公営競馬本来の使命達成のため、御健勝で御努力くださるよう心から御祈念申しあげ、お祝の言葉といたします。

私が、ばんえい競馬に関係するようになったのは昭和二十五年頃から祭典挽馬に参加し公営競技には、運搬業、農耕等に使われる馬と、共に働く方々とばんえい競走に参加して居たものです。昭和二十八年競馬が四市で開催されるようになり働き乍らも各市に転戦、競そうようになり、ばんえい競馬もだんだん変りを遂げ、発展して参りました。

この様な中で地方競馬は各地競馬場で開催される公営競技としては問題点も多くあり、これを統一改善するため、昭和三十七年地方競馬全国協会が設立されました。

昭和四十三年ばんえい競馬も四市が北海道市営競馬協議会を設立し競技の統一改善、用具の改善、庁舎施設の増改築等、競馬場の整備充実が

北海道ばんえい競馬が生れて四十有余年を経て、ここに北海道市営競馬組合が設立され公営競馬として四市統一された運営実施がされますことは、私達、競技に直接参加するものとして誠に喜ばしい次第であります。今後の発展を期待し心からお祝い申しあげます。



ばんえい競馬35年 市営競馬協議会20年

28年

◎旭川、帯広、北見、岩見沢市営競馬発足
平地 帯広二回九日、旭川、北見、岩見沢各一回一三日 計五回二二日
ばんえい 帯広、岩見沢各二回八日、旭川、北見各一回五日 計六回一三日
合計一一開催三五日間

39年

◎体型による格付区分を体重制に改正

40年

◎丁級馬能力調教検査実施

41年

◎道営ばんえい競馬の中止

42年

◎地全協より審判委員が派遣される

43年

◎北海道市営競馬協議会設立

29年

◎国営競馬は民営移管となり、中央競馬会が設立される。

32年

◎八月北見市営(平地)競馬で馬不足のため、一日二レースばんえい競走を織り込んだ混成番組を編成

37年

◎地方競馬全国協会が設立され、騎手免許、馬登録業務が道から移管

38年

◎馬主・調騎会設立
◎地全協による初の騎手免許実施 受験者三七三名、合格者三四六名
◎旭川、U字から直線コースに改善 同

45年

◎ばんえい競走制裁基準の作制

◎薬物検査の実施

◎格付区分の名称を甲乙丙丁A丁BからA B C Dに改正

◎枠別帽色及びゼッケンの採用

◎ばんえい競走PRのため会報を発刊

◎岩見沢総合スタンド落成

◎対面パトロールタワーを従来の八メートルから一五メートルに改善

46年

◎開催回日数一回増で一二回七二日

◎鉄製檣、引木、グラスファイバー製かじ棒の採用

◎スターティングゲートの設置

44年

◎帯広、北見、岩見沢、対面着順写真判定採用

◎VTRパトロールの採用

◎ガードマンの採用

◎騎手服色、靴の統一

◎出走馬年齢を一三歳以下に制限

◎きゅう舎自衛委員会の設置



◎騎手重量靴の統一

◎調教用鉄櫓の整備

◎騎手試験、秋季に実施

◎地全協リーディングジョッキー賞新設

47年

◎開催回数二回増で一四回八四日

◎VTR後方パトロールの増設

◎着順電光掲示の採用

◎地全協主催による騎手講習会の開催

◎馬資源対策の樹立推進

(一)四歳馬レースの新設

(二)新馬年齢制限八歳以下

48年

◎開催回数二回増で一六回九六日

◎大井競馬場においてばんえいアトラクションを開催

シオンを開催

◎VTR前方パトロールの増設

◎体重制格付区分を取得賞金制に改正

◎走路整備機、撒水機を試作使用

◎ばんえいハイライト放映

◎きゅう舎馬房調教師割当制の実施

◎きゅう舎管理規則の制定

◎帯広売得金上昇率全国第一位(一八・八・五%)

五%)

◎馬資源対策の推進

(一)新馬年齢を七歳以下に制限

(二)祭典ばん馬競走の保存奨励事業実

施

49年

◎開催回数一回増で一七回一〇二日

◎北見競馬場移転新設、帯広競馬場スタンド新築落成

◎帯広、北見、岩見沢、第二障害廃止

◎賞金前年比一九〇%の増額

◎赤外線水分計による馬場状況湿度表示を実施

◎減量騎手制度、牝馬減量の実施

◎調教師服、きゅう務員ズボン統一

◎北海道市営競馬協議会ばんえい競走生産奨励事業実施要綱の制定

◎馬診療所開設される

◎ナイロンベルト製の胸引を採用

◎ばんえい鉄櫓不正事件発生

◎市協内田事務局長参与となり、事務局長に鈴木一彦氏が就任

◎騎手ヘルメット着用の統一

◎新馬年齢制限五歳以下に

◎旭川競馬場移転新設落成

◎ばんえい競走売得上昇率一三〇%で全国第一位(全国平均一〇三%)

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%で二年連続全国一位(全国平均一〇一・一%)

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

51年

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

◎ばんえい競走売得上昇率一一二・八%

◎出走馬年齢を一二歳以下に制限

◎ばんえい公正対策推進

(一)鉄櫓、重量物を全鉄製に改造

(二)市協職員を一二名増員

(三)ガードマンの増員

◎日本馬事協会、競走馬から種牡馬買上げを始める。荒井きゅう舎、タカナミ

号

◎革製乗馬手綱(貸与)の統一

52年

◎岩見沢競馬場、定額券発売機導入

◎地方競馬実施条例の全面改正

53年

◎調教騎手、騎乗騎手の兼業禁止(調騎分離)となる

◎調騎会勇退退職給付制度発足

◎出走馬年齢を一〇歳以下に制限

◎市協創立一〇周年記念事業として市協前事務局長内田靖夫執筆による「ばんえいまんがどくほん」発刊

◎ばんえい騎手提要完成

◎宇都宮競馬場において、ばんえいアトラクション開催

◎櫓の鼻木前方にけり止を設置

◎重賞競走用に紫色のゼッケンを採用

◎北見競馬場、シングルユニット発売機

導入

54年

◎北見競馬場、シングルユニット発売機

導入

◎走路整備用として横動式ワイドハローを二台購入

◎ワラビ型へのハミかんの嵌入防止のため胸締めキャップを採用

◎積載重量物の配置基準表を作成

◎防塵対策として、走路撒水機導入

◎岩見沢競馬場において、ファン投票による四・五歳選抜ボブラ賞競走実施

◎金山騎手、六年連続一〇〇勝以上通算八〇〇勝達成

55年

◎旭川競馬場、シングルユニット発売機導入

◎引退する一〇歳オープン馬による螢の光賞を新設

◎重賞競走の一部を定量化

◎検量室に電光式入着掲示板を設置

◎減量騎手の勝鞍制限を二五勝に引上げる

◎金山騎手七年連続一〇〇勝以上

◎馬主会とのタイアップで「ばんえいカレンダー」二万部製作

◎日刊スポーツリーディングジョッキー賞新設

56年

◎帯広競馬場、シングルユニット発売機導入

◎開催回数一回増一八回一〇八日

◎岩見沢競馬場で八月三日から三日間にわたる集中豪雨のため新きゅう舎を中心に床上浸水等の被害

◎雪化粧の北見最終日、芦毛指定馬の「白馬賞」を実施

◎胴引はずれ防止ひもの採用

◎売得金総額前年対比九二・二%、一日平均八七・一%のばんえい初の大巾なダウンとなる

57年

◎帯広競馬場において北見競馬第四、五回（一二日間）を場外発売、四億四四〇〇万円の好成績をあげる

◎開催回数二回増二〇回一二〇日

◎売得金一日平均前年対比が九〇・六%と二年連続のダウン

◎地全協より発走委員が全開催派遣

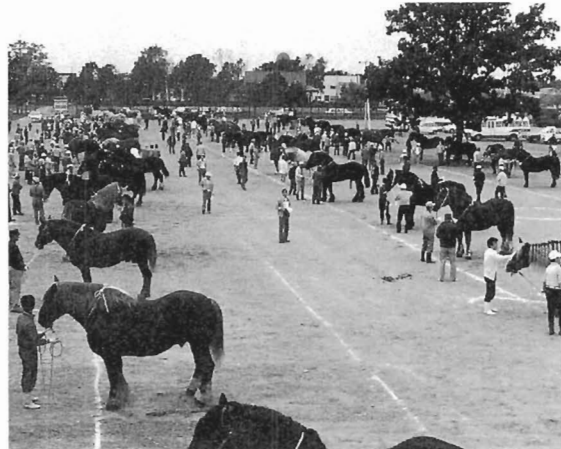
◎かじ棒絡み防止装置を旭川競馬の初回から採用

◎金山騎手年間一〇〇勝以上八度目となり、岩見沢第一回第三日第一レースにおいて通算一〇〇〇勝を達成

◎中西調教師、帯広市開基一〇〇年市制施行五〇年記念式典において「産業功

労賞」受賞

◎九月三日帯広市において、本会の補助による「第一回北海道優良種雄馬展示会」開催



◎番組、賞典の合理化として、中央情報処理電算化システム導入

◎櫛ひざ当クッションの設置

◎重賞競走用ゼッケンに馬名を記入した名札を挿入

58年

◎売得金一日平均前年対比が九四・四%と三年連続のダウン

◎三歳雌馬の優遇策（二〇kg減、雌馬競走の賞金1/3加算）を実施

◎市営競馬協議会設立一五周年

◎水沢競馬場において、ばんえいアトラクション開催

◎山田騎手、帯広第二回第四日第一〇レースにおいて通算一〇〇〇勝を達成

59年 ◎開催回数二二回一二六日、北見特認一開催

◎帯広、北見で薄暮競馬実施

◎四市競馬場において相互場外発売開始並に中央競馬釧路サービスタワーで場外発売実施

60年 ◎売得金一日平均前年対比八九・三%と五年連続売上ダウン

◎木村騎手、帯広第三回第六日第八レースにおいて通算一〇〇〇勝を達成

◎「暴力団、ノミ屋、コーチ屋等の入場拒否」を一月二日からの帯広競馬場で実施

◎旭川ばんえいで偽造馬券防止のため特殊塗料で馬券を印刷

61年 ◎開催回数二二回一三二日、北見特認二開催（計七回）

◎新人夏井騎手年間六九勝、新人最多勝を大中に更新

◎組合設立準備のため各市から出向職員

が派遣される

◎八月二四日岩見沢競馬において、キングタワー号、ばんえい史上初の賞金取得額一億円を達成

◎北見競馬場で旧払戻所をファンの休憩所に改修

◎金山騎手、七月二七日岩見沢競馬場でばんえい史上初の一五〇〇勝を達成

◎一月二九日から特殊なキザミ蹄鉄の装着を全馬に義務づけ、公正競馬と調教中の事故防止を図る

62年 ◎売得金一日平均前年対比一一六・八%の二桁の伸びを示し、七年ぶりに上昇

◎全場外発売に向けての映像伝送による情報サービスを実施

◎旭川市内場外（旭川レーシングセンター）を新設、一〇月一九日にオープン

◎北見第六回第五日第三レースの三才競走で単勝式五六、二四〇円の大穴がでてレコードを更新

◎四競馬場ともにゴール板を馬蹄型に改善

63年 ◎六月一四日帯広競馬場第四レース四五才条件レースで一着と三着がそれぞれ同着という珍しいケースがあった。



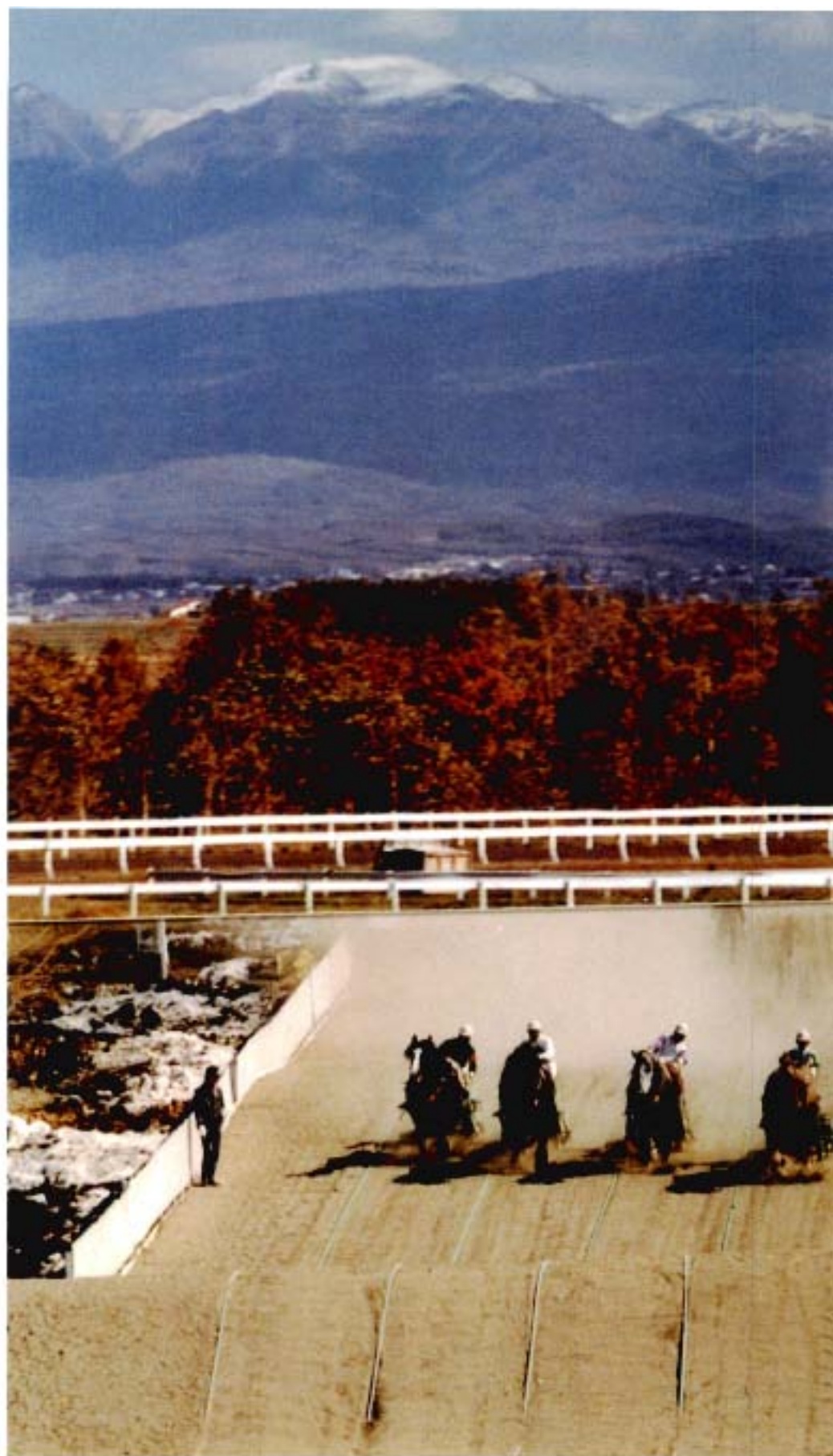
◎金山・木村両騎手が一日六騎乗制限時代としては、至難の一万回騎乗の大記録を達成

◎久田騎手が金山騎手の持つ六〇年度一二八勝のレコードを更新し、年間二三〇勝の大記録を樹立

◎一部事務組合が、本会を母体として平成元年から「北海道市営競馬組合」として発足

◎六月一九日、昨年オープンした旭川レーシングセンターに続き、「ハロンズ岩見沢」がオープン





北海道市営競馬組合組織図

管 理 者
(非常勤)

者

副 管 理 者
(常勤)

事 務 局 長

審 議 会

業 務 課

投 票 課

競 走 課

総 務 課

会 計 課

保 安 係

業 務 係

投 票 第 二 係

投 票 第 一 係

競 走 係

財 務 係

総 務 係

会 計 係

● 収 入 役

● 監 査 委 員

● 公 平 委 員 会

昭和63年度成績

1. 投票関係成績

(1) 売得金額

区分 開催市	売 得 額						本場1日平均売得		本場1人平均購買	
	千円	1日平均 千円	前年比 %	55年比 %	本場 場外	千円	%	千円	%	円
旭川	6,546,120	218,204	110.3	73.2	本場 3,453,300 場外 3,092,820	52.8 47.2	115,110	94.7	45,312	103.6
帯広	7,478,830	207,745	115.3	79.2	本場 2,997,910 場外 4,480,920	40.1 59.9	83,275	83.7	44,458	113.9
北見	5,583,900	186,130	99.7	83.2	本場 2,455,610 場外 3,128,290	44.0 56.0	81,853	107.4	45,658	115.3
岩見沢	6,819,090	189,419	101.6	70.3	本場 3,053,120 場外 3,765,970	44.8 55.2	84,808	82.4	41,719	96.4
計	26,427,940	200,211	106.4	75.9	本場 11,959,940 場外 14,468,000	45.3 54.7	90,605	90.6	45,833	105.8

(2) 入場人員

区分 開催市	本 場				場 外				合 計		
	入場人員	男 性 女 性	1日平均 入場人員	前年比 %	入場人員	男 性 女 性	1日平均 入場人員	前年比 %	入場人員	1日平均 入場人員	前年比 %
旭川	76,212	63,762 12,450	2,540	91.4	117,524	103,121 14,403	3,917	146.9	193,736	6,457	118.6
帯広	67,432	57,244 10,188	1,873	73.5	118,175	104,834 13,341	3,283	147.8	185,607	5,156	108.1
北見	44,120	36,149 7,971	1,471	93.2	109,229	96,542 12,687	3,641	111.9	153,349	5,112	105.8
岩見沢	73,183	58,802 14,381	2,033	85.5	128,354	113,717 14,637	3,565	134.8	201,537	5,598	111.4
計	260,947	215,957 44,990	1,977	85.6	473,282	418,214 55,068	3,585	131.8	734,229	5,562	110.6

(3) 場外発売

区 分	場 外 発 売 日 数							場 外 発売金額	場外比率
	旭川RC	帯 広	北 見	岩見沢	H R 岩見沢	釧 路	計		
旭 川	30	29	30		30	15	134	3,092,820	47.2
帯 広	36		36	16	18	19	125	4,480,920	59.9
北 見	30	30			30	14	104	3,128,290	56.0
岩見沢	36	18	36		18	24	132	3,765,970	55.2
計	132	77	102	16	96	72	495	14,468,000	54.7

区 分	発 売 金 額			一人平均購買額		入 場 人 員		
	合 計	1 日平均	前年比	購 買 額	前年比	合 計	1 日平均	前年比
旭川RC	6,838,120	51,800	79.9	34,046	95.5	200,848	1,521	83.7
帯 広	2,025,970	26,310	83.4	27,857	88.3	72,727	944	94.4
北 見	2,922,720	28,650	106.2	43,978	108.5	66,458	651	97.7
岩 見 沢	254,330	15,890	88.9	37,167	102.7	6,843	427	86.6
H R岩見沢	1,580,590	16,460	—	21,575	—	73,261	763	—
釧 路	846,270	11,750	91.9	15,924	111.7	53,145	738	82.3
計	14,468,000 前年比124.3%	29,220	104.7	30,570	94.3	473,282	956	—

区 分 主催者	旭川レーシングセンター							ハロンズ岩見沢				ウインズ釧路							
	単独発売 (旭川本場日除)							単独発売 岩見沢本場日除				単独発売							
	発売金額	発売日数	1日平均 発売金額	前年比	発売日数	1日平均 発売金額	前年比	発売金額	発売日数	1日平均 発売金額	発売金額	発売日数	1日平均 発売金額	前年比	発売日数	1日平均 発売金額	前年比		
市営競馬	6,839,910	132	51,810	80.0	64	67,660	79.4	1,581,000	96	16,460	53	20,630	846,650	72	11,750	91.9	25	15,073	103.7
ホッカイドウ 競馬	3,237,520	101	32,050	110.6	41	42,890	103.1	818,760	71	11,530	14	16,910	2,480,940	97	25,570	124.6	54	25,293	103.9
中央競馬													10,237,500	104	98,430	105.7	104	98,437	105.7

2. 競技関係成績

区 分	成 績	前 年 比
報 償 費 総 額	2,251,000 ^{千円}	+121,000 ^{千円}
競走回数	1,368 R	+3 R
重賞競走	29 R	+1 R
特別競走	258 R	-32 R
重賞競走1着賞金		
農林水産大臣賞典	700 ^{万円}	
岩見沢記念	650	
旭王冠賞	600	
旭シルバーカップ	400	
3競走	300	
6競走	250	
12競走	200	
4競走	150	
出 走 馬		
出走申込頭数	1,293頭	+42頭
新馬登録頭数	748頭	+41頭
出走延頭数	12,991頭	+186頭
出走実頭数	658頭	+18頭
3才	213頭	+8頭
(牡馬)	169頭 (79.3%)	+23頭
(牝馬)	44頭 (20.7%)	-15頭
4才	125頭	+7頭
5才	98頭	+16頭
6才以上	222頭	-13頭
1競走平均出走頭数	9.5頭	+0.5頭
取 得 賞 金		
年令別最高取得金馬		
6才以上 タカラフジ	17,735 ^{千円}	14戦4勝 旭王冠賞・帯広記念
5才 チカラ トウショウ	9,100 ^{千円}	8戦5勝 ポブラ賞
4才 スーパー コマヨシ	5,600 ^{千円}	16戦3勝 チャンピオンC・菊花賞
3才 カゲイサム	7,801 ^{千円}	16戦4勝 イレネー記念・青雲賞
1頭平均取得賞金額		
3才	1,342,014円	-11,810円
4才以上	1,702,975円	-62,220円
全馬平均	1,586,453円	-46,975円
3才性別平均取得賞金		
牡馬	1,320,769円	+49,906円
牝馬	1,463,023円	-96,096円

区 分	成 績	前 年 比
馬 体 重		
最終出走時平均馬体重		
3才	888kg	+15kg
4才以上	969kg	+10kg
全馬平均	943kg	+12kg
馬 体 重	(最高~最低)	
3才	1,018 ^{kg} ~ 777 ^{kg}	
4才以上	1,136 ^{kg} ~ 794 ^{kg}	
1トン以上馬		
3才	1頭	±0
4才以上	126頭	+46頭
騎 手 成 績		
調教師	49名(新人2名)	-1名(+1)
騎手	30名("4名)	+2名(±0)
調教師成績		
取得賞金	前原芳郎	49,137 ^{千円}
勝利度数	林正男	58勝
勝率	尾ヶ瀬富雄	18.16%
騎手成績		
取得賞金	久田守	98,505 ^{千円}
勝利度数	久田守	130勝
勝率	久田守	17.33%
勇退調教師	鶴沼正吉 (大正11年4月生)	
	本沢政一 (大正11年1月生)	
リーディングトレーナー		
第1位	林正男	
第2位	山田勇作	
第3位	服部義幸	
第4位	水上勲	
第5位	山下正光	
リーディングジョッキー		
第1位	久田守	
第2位	金山明彦	
第3位	大河原和雄	
第4位	千葉均	
第5位	藤本匠	

昭和63年度市営競馬成績

区分 主催市	回別	売 得 金 額 (円)		賞 金 額 (円)	入 場 人 員 (本場:人)	
		1 開 催	1 日 平 均		1 開 催	1 日 平 均
旭 川 市	1	1,229,155,600	204,859,267	47,310,000	18,284	3,047
	2	1,387,637,400	231,272,900	56,483,000	21,100	3,517
	3	1,407,300,600	234,550,100	46,704,000	14,490	2,415
	4	1,272,187,100	212,031,183	47,064,000	11,108	1,851
	5	1,249,847,000	208,307,833	57,694,000	11,230	1,872
	計	6,546,127,700	218,204,257	255,255,000	76,212	2,540
帯 広 市	1	1,056,959,400	176,159,900	45,298,000	13,012	2,169
	2	1,102,445,800	183,740,967	45,803,000	11,862	1,977
	3	1,188,093,000	198,015,500	45,473,000	11,061	1,844
	4	1,140,977,700	190,162,950	47,375,000	10,655	1,776
	5	1,378,852,000	229,808,667	52,975,000	10,328	1,721
	6	1,611,508,600	268,584,767	48,055,000	10,514	1,752
計	7,478,836,500	207,745,458	284,979,000	67,432	1,873	
北 見 市	1	1,122,607,900	187,101,317	42,445,000	10,609	1,768
	2	1,098,151,800	183,025,300	40,914,000	9,281	1,547
	3	1,131,980,100	188,663,350	42,265,000	8,601	1,434
	4	1,063,522,900	177,253,817	42,566,000	7,442	1,240
	5	1,167,644,100	194,607,350	46,074,000	8,187	1,365
計	5,583,906,800	186,130,227	214,264,000	44,120	1,471	
岩 見 沢 市	1	890,497,500	148,416,250	42,177,000	12,660	2,110
	2	1,002,562,400	167,093,733	41,606,000	13,142	2,190
	3	1,229,177,900	204,862,983	48,215,000	15,435	2,573
	4	1,246,696,300	207,782,717	49,794,000	10,872	1,812
	5	1,270,808,900	211,801,483	50,213,000	10,742	1,790
	6	1,179,347,800	196,557,967	57,383,000	10,332	1,722
計	6,819,090,800	189,419,189	289,388,000	73,183	2,033	
合 計		26,427,961,800	200,211,832	1,043,886,000	260,947	1,977

昭和63年度ホッカイドウ競馬成績

区分 競馬場	回別	売 得 金 額 (円)		賞 金 額 (円)	入 場 人 員 (本場:人)	
		1 開 催	1 日 平 均		1 開 催	1 日 平 均
帯 広 競 馬 場	1	911,775,200	151,962,533	65,790,000	7,447	1,241
	2	1,470,876,400	245,146,067	70,380,000	12,731	2,122
	3	1,764,239,500	294,039,917	72,630,000	6,438	1,073
	4	1,790,147,500	298,357,917	78,930,000	6,788	1,131
	5	1,832,938,200	305,489,700	84,960,000	7,568	1,261
	計	7,769,976,800	258,999,227	372,690,000	40,972	1,366
旭 川 競 馬 場	1	1,181,065,300	196,844,217	65,430,000	3,820	637
	2	1,356,618,500	226,103,083	69,300,000	3,831	639
	3	1,795,664,700	299,277,450	90,540,000	5,082	847
計	4,333,348,500	240,741,583	225,270,000	12,733	707	
札 幌 競 馬 場	1	2,338,030,200	467,606,040	73,260,000	44,178	7,363
	2	2,398,432,400	399,738,733	102,330,000	34,376	5,729
	計	4,736,462,600	430,587,509	175,590,000	78,554	7,141
岩 見 沢 競 馬 場	1	1,499,266,900	249,877,817	81,540,000	6,666	1,111
	2	1,546,911,200	257,818,533	77,310,000	5,775	963
	3	1,756,163,700	292,693,950	94,410,000	8,423	1,404
	4	1,425,519,300	237,586,550	72,900,000	4,584	764
	5	1,764,488,100	294,081,350	97,110,000	5,979	997
	6	1,610,705,600	268,450,933	87,930,000	4,277	713
	7	1,904,594,500	317,432,417	108,630,000	5,399	900
計	11,507,649,300	273,991,650	619,830,000	41,103	979	
合 計		28,347,437,200	280,667,695	1,393,380,000	173,362	1,716

※札幌第1開催は5日間



マスコミに取上げられたいばんえい

1、一月二十三日 NHK・TV

PM八・五〇

この日開催された宮崎県都城家畜市場の馬市は大入満員の盛況。出場馬は明二才と三才の約七〇頭。ほとんどがばんえい型、一頭平均九万四千円、最高は一八万五千円の高値で売人達は大喜び、中には一升瓶を下げて酒をふるまう親方もいた。

2、二月四日 NHK・TV

PM六・四〇

十勝音更の国営牧場では妊娠馬九〇頭の雪中運動をやっている。深雪の中を縦横に走らせているのは元国鉄マンの中野圭三さんだ。「やっと馬に乗れるようになりました。まだ落ちたことはありませんよ。」と馴れるまでの苦心を語る。この日の音更は永点下九度である。雪中運動はしばらく続く、馬種はいづれも仏国原産ペルシュロン・ブルトン。

中野さんは「雪中の乗馬は危険なので、勉強々々です」という。国鉄改革で転業してきたのだろうか。これは夜の八時から帯広放送局から再放送になった。

3、二月六日 HBC・TV

PM一・〇〇

HBC昼のニュースは今年調教師になった鈴木さんの三才馬フジマルの深雪調教を見せる。冬季は百キロの重量を積み雪にうづまる櫓をひかせての調教だが、次第に重量を増し四月本番では砂上を三百キロ積んでの競走に備えなければならない。

鈴木さんは一億円馬キンタローを目指して猛烈調教に頑張る。

4、二月七日 HBC・TV

AM八・〇〇

世界の旅で著名な兼高かおるの時間。今日は珍しいカナダ産の大型ペルシュロンを紹介する。その巨大な永上蹄鉄（ゴトクのように足のついた蹄鉄、有棘鉄ともいう）の装蹄風景を見せる。

5、二月十四日 NHK・TV

PM二・二〇

カナダ・カルガリーで行われた冬季オリンピック大会開会式にカナダ総督を乗せて駆ける馬車と、同じく英国チャールズ皇太子の馬車はいづれも二頭曳き。これを守る十六人の乗馬警官はみな女性、所謂婦警さんである。カナダは元英国領であったため今尚、英国式の色が濃く残っている。カナダ総督は女性で毛皮にくるまうって英国国旗ユニオンジャックとカナダ国旗（楓の模様）をなびかせて華麗な騎馬隊に守られながら会場に向っている。

6、二月二十三日 NHK・TV

AM七・四〇

NHK朝のニュースで北見市内の馬産農家に今ばん馬型の可愛らしい仔馬が次々と生れている。生まれたとき既に七〇キロ位あり、すぐ二倍以上に育つ。市内農家で生産する仔馬は十頭位だが、そのうちばんえい競馬に出場できるのは一頭位しかないという。愛らしい仔馬の前途には厳しいトレーニングが待っている。

7、三月二日 NHK・TV

AM七・四〇

冬期間のテレビ、ラジオは冬のばんえい調教を時折取り上げる。この日は旭川放送局の小野アナウンサーが雪の旭川競馬場ではん馬の特訓ぶりを取材放送する。

馬場では八頭の三才馬が身体から濺々と汗の湯気をあげながら猛烈調教にいそしんでいる。もう本番は来月だ。ことしのテストにはおそらく七百頭が受けるらしくそのうち合格するのは二百頭位。

今、旭川に入厩している調教師・騎手・厩務員達は三〇人だが、朝暗いうちから起きて厩舎の掃除、かいばつけ、馬の手入れと忙しい。

測上調教師が説明役を引受けて、今年は雪が深く調教には困難だが、力づくに好都合、入厩している三才馬は既に一トんに達しているのもおり発育調教共に良好だ。人間なら十二才位の少年だがこの深雪の中を三百キロから五百キロをつけ引っぱりまわしている。馬は可愛らしく寝食を共にするのはなによりも我々の幸福というもんだ。あまり厳しくしてもあまり甘やかしても駄目だという。

8、三月二日 NHK・TV

AM八・一〇

秋田県阿仁町の浅利さんは既に四〇年来冬山造材を業とし今も続けている。往時盛んだった山出しは機械化されて、現在数人が従事しているのみで大変珍しい。

山からの角出しには昔ながらのズリ（

小さな轆を二つないだようなもの)に太いのは直径五・六センチから一メートル、細目の一〇センチから二〇センチの材木をつけ山道を馬にひかせてお

馬は馴れた山道の緩急曲折を慎重に選んで浅利さんにはひとつの不安もない。

9、三月二日 NHK・TV

PM 8:00

旭川競馬場での越冬調教馬は約九〇頭みな四月の三才テスト待機の猛訓練中だ。調教師の前原和信さんが目下調教中の馬は十一頭、昨年はテストに合格した馬は五頭、不合格になれば肉用に売られてしまう。腹までつかかる深雪について猛訓練がつづく。前原さんは年に百回のレースをこなした騎手だったが思わぬ事故にあり調教師を志した。今はひたすら優秀馬を仕上げることに専念している。

三月の朝六時はまだ暗い。しかし調教は始まっている。子供を実家に預けけたすら調教に励む。奥さんは元サラリーマンの妻として結婚したのだが父親の不幸にあい「気がついたらばんえい調教師の妻だった。」と笑う。日曜には実家から子供がやってくる。兄は競馬が嫌いだ。弟はその逆、ばんえい最高のレース「農林水産大臣賞レースの出場馬をつくりたい。」というのが夢。特集北海道スペシャルの中の十五分間

10、三月十日 NHK・TV

PM 7:30

この夜NHK・TVは語り手富田靖子

で美しい北海道の広大な平原を紹介する。ところは富良野。どこまでも続く平原のゆるやかな起伏には各種の畑作物とラベングター、ポピーなどが見事なパッチワークをつくり重畳とひろがる。その中を農機具をつけた馬が行く。これは前年撮った富良野の秋景らしく冷たい風ですっかり落葉し小麦畑は黄色に染まり、晩秋の枯葉に埋まる時季の富良野を紹介したのも。富田さんは「フラノアンコール」とうたい再会を約束する。

11、三月十三日 HBC・TV

AM 8:00

お馴染み「兼高かをる」の世界の旅。この日は中国内蒙古自治区の少女少女を紹介する。この自治区の首都はフホトだがそこにある有名な博物館の正面屋上には勇壮に駆ける馬像が飾ってある。

内蒙古自治区にはフホト、包頭集寧などの都会もあるが大部分は平原と砂漠と山岳であり平原は大放牧場でもある。自治区面積だけで日本の約三倍という広大さ。資源に富み地下はほとんど石炭層だという。時には馬車に塊炭を積んで鼻唄をうたつて行く農夫を見かけることがある。少女少女の教育はすこぶる熱心で内蒙古各少年宮(小学校)の武術は有名である。

広大な放牧地には牛馬羊が仲良く放牧され、牧柵はなく他国とは逆に住宅を乾泥で造った土塀でかこい家畜の侵入を防いでいる。馬体は軽種中間種、和種型と雑多だが概ね軽種型中間種が多い、特に

外国馬を入れて改良するということはやっていない。

12、四月十七日 NHK・TV

PM 8:50

この日は今年ばんえい競馬の幕明け、岩見沢全六回三十六日間の第一目にあたる。岩見沢競馬場は約四五〇〇人のファンで賑った。初日の入りとしては悪くない。好天青空の下で人馬は一体となった二百メートルのコースで競い満員のスタンドは一喜一憂するファンでどよめいた。

13、四月二十五日 NHK・TV

PM 8:50

これはサラブレットの郷といわれる日高静内にて取材した「土さん仔の詩」であ

る。静内ではサラブレットを生産している高橋さんは、よく働く土産を飼っている

牧場に青草の萌える頃、つくしの芽もあちこちに生えている。兄の弘松君は十才、弟の和明君は六才で馬小屋でいつもお父さんの手伝いをしてる。そのご褒美はいつも土産に乗って牧場を廻ることだ。サラブレットの二才仔の運動にはいつも土産に乗って手伝う。弟の和明君は大きくならたら騎手になるのが夢である。それに反して兄のほうは乗馬が不得意でおっかないというから面白い。

14、五月二十日 NHK教育TV

PM 8:00

乗馬姿、その優美なポーズは古代からの伝統である。

古城と馬、騎士古武士と馬、多くの彫刻と浮彫、遺跡を映出して馬と美と歴史を六週シリーズにして紹介する。説明役はクレントの森本レオさん。時には女性レポーターも資料の説明役として出演。シルクロードに黙々として働く馬、

古代ギリシャ彫刻に見られる騎馬像、馬を機動力とする戦車などには時代々々の勇壮な軍馬の活躍が見られる。多くが中間種に属するか軽ばん馬が多く戦車の駆動は二頭乃至四頭曳きが多い。当時のすぐれた馬術が偲ばれる。古代ギリシャ大帝の騎馬軍団を現した遺跡、愛馬の死を嘆く勇士の姿。北方騎馬軍団の襲撃には中東の服装をした精悍な兵士の姿がある。中国で最も活躍した汗血馬など馬が活躍した時代を描く。



15、五月二十九日 NHK・TV

PM 6・五三

道南の森町で開催された祭典ばん馬を取上げる。森町は元来ばん馬競走の盛んな町でこの日も約八〇頭の重ばん馬が出場し観衆も五千人を超える盛況ぶり。

16、六月十六日 HBC・TV

AM 九・三〇

HBCのレギュラー番組のひとつモーニング・アイはこの日道内で働く土産馬を紹介する。アナウンサーの浅生有紀さんは自ら馬と同居して厩舎で馬との生活を体験する。馬小屋には既に人が住んでいていろいろと教えてくれる。但し、この人も定住者ではない。放牧中の土産馬は約五〇頭、馬主は既に紹介されたこともある木村さんだ。木村さんは土産馬の鞍づけを教える。これは独特の駄載用和鞍である。次に馬のダニ取りを命ずる。放牧馬のダニは頸の柔かい皮膜のあたりに密集して吸着している。親にも仔にも吸いついているのだ。馬は痒ゆがって木に頸をすりつけたたりしているが、人が取ってやるのが最も効果的で人馬の伸を良くするという。

鞍やくつわなど馬具づくりは材料を揃え寸法を計って木村さん自身でやる。尾と鞍、鞍と頸絡をつなぐ土産馬独特の馬具も造る。

木村さんには幾人もの弟子がおり毎日毎日「鼻たらし、しっかりやれ」と叱られながら働いている。こわい主人だ。お内儀さんのゆきさんは「いつもはもつと

おっかない」と訴える。土産馬は幾頭も

頭絡と尻尾をロープでつなぐ隊列を組む。これを昔から「だんづけ馬」といい駄載運搬として優れた能力を発揮した。駄鞍の左右に交互に丸太や俵をつける。これが昔から馬方一人の仕事だったのだから驚く、木村親方は手と歯でロープを器用に捲きつけ引っぱり荷物をつけ腕でしめる。荷つけには一頭約五分かかるという。正に熟練の技である。馬をつかまえるのがやつの浅生レポーターはそれが仕事だったが隊列も決まって大荷物の上に乗せてもらう。鞍上は案外安定している。おチヨコの酒もこぼれないというほどの安定したチミチ（側対歩法）が土産馬の特徴だ。

荷物の運搬を終った馬達は待機していたトラックで牧場に帰る。車上で騒いでも木村さんは「一向にかまわねえ」と心配しない。

17、六月二十日 NHK・TV

AM 七・五六

七時四〇分の「北海道ワイド」ビデオわが町で中頓別を紹介する。北海道北の街中頓別はベーチャン川の砂金とりで名がある。

ここには今二十六頭の土産馬がおり砂金とりを手伝っている。この街はまた少年のマラソン熱が盛んでクロスカントリ少年と馬と砂金が出る中頓別は夢の街。

18、六月二十七日 NHK・TV

PM 三・四〇

宮崎県の山は肥杉の密林である。今も尚、ばん馬による造林の山出しが行われ日向の木挽き唄は名曲として扱われている。伐採はチェンソーで、下木の運搬はブルドーザーだが大丸太を痛めない運搬はばん馬が使われている。名曲とはん馬、なかなか味のある取材であった。

19、七月四日 NHK・TV

AM 八・〇〇

NHKニュース、岩手県下の町宮相の沢牧場には一六〇頭余の馬を預託放牧している。このうち八三頭はアルトン・ペルシロン種のばん馬で八百キロ以上の体重がある。今春は八〇頭の仔馬が生れ豊富な母乳で育ち思いっきり走り廻って育つてゆく。岩手は現在全国で三番目の馬産地である。仔馬は今二五〇キロ位に成長しているが十一月には四五〇キロ位に成長し、馬主の下に引き取られてゆく。

20、七月五日 毎日新聞

山形県でもばん馬競走が行われている。北海道のばんえい競走は騎手が櫓に乗り一人取法でやるが、これは明治時代本道が米国農法を取入れてエドウィン・ダンなどが教えた一人取法が根付いたものといわれる。

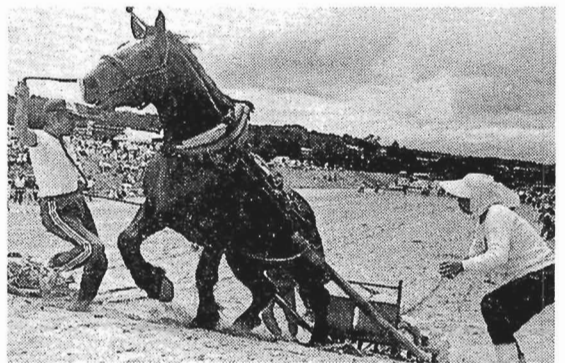
東北のばん馬競走はいずれも二人取法で一人は馬をひき、一人は後方から追いたてる取法である。

この写真は山形県舟形町の河川敷で行なわれたばん馬競走で三百キロから一トンの砂袋を櫓に積み人馬一体となって障害を楽々こえる場面で東北のばん馬競走

をよく見せている。

21、七月七日 NHK・TV

PM 七・三〇



NHK木曜夜の番組「北海道中膝栗毛」この夜は浜中町の愛馬家安藤さんを紹介する。安藤さんは今は競馬界では見られなくなつたけい駕速歩競走馬を調教している。

この駿馬は五才のダイナマイト号で安藤さんの厩舎で生れ手塩にかけて育ててきた。安藤さんの本業は昆布漁で海から昆布を東へ引っぱり上げるのはダイナマイトの仕事だ。ダイナマイトは速歩馬だが体型は屈強な軽ばん馬型で従順で力持ちだ。

浜中の海には喜久丸の遭難など多くの

海難の伝説があり海辺には巨岩を先端として平坦な丘が山へと続いている。その巨岩はちようと少女の顔の形をしており村の人達はなみだ岬といっている。

22、七月十四日 毎日新聞

特集「夏・エトピリカの島」その六では、かつて本誌で紹介したユルリ島の野生馬を描いている。この島は海鳥の繁殖地であると同時に馬の自然放牧地としても知られている。実はこの島のコンブ漁が今以上に盛んだった昭和の始め、舟からコンブを引き揚げ、絶壁を荷揚げして台地の干し場に持ち込むまで最大の労働力となったのが馬である。農耕馬と外来種の雑種だが胴長でずんぐり、そして気



は優しく力持ち。

船外機が登場して島の番屋が廃屋となりコンブ漁が「通い」となつてからも馬達は島に残つた。アイヌミヤコサヤやネムロタンポポの茂る草原は彼等にとつて天然の食糧庫。ただ厳寒期はさすがに呑気にしてはいられない。沢伝いにくぼ地をたどりわずかに顔を出すササを食べて喰いつなぐ、雪があまり多くないのが救いだ。

23、七月十七日 HBC・TV

PM 一六・〇〇

HBCの好評番組「報道特集」はこの日「みちのくに巨大馬のパワーが爆発」と、東北地方に繰り広げられる各市町村のばん馬大会を取上げる。東北地方には農家ばかりでなく、ばん馬に熱心な会社、商店主も多くばん馬を生産しかつ北海道に向いて、テスト不合格馬などを買入れてくる人も多い。ばん馬大会場には多くの賞状や優勝旗、タンス、応接セットなどの賞品が山と並べられている。しかし一番人気のあるのは優勝旗で各クラスの優勝者は、優勝旗を肩に勝馬にまたがり場内を一周する。正に得意満面の一瞬だ。そしてその夕べは男も女も酒を飲み歌と踊りを楽しむのだ。

五戸町ばん馬大会の甲クラス優勝馬は道産重種のタカシンリュウ号だ。

ここで現在北海道、東北のばんえい大会に優秀巨大馬を供給している北海道音更の国立種馬牧場と北海道ばんえいが紹介される。生産馬はいづれも仏国産ベル、

ブル種である。二才馬のせり市には大勢の生産農家、ばんえい調教師、馬商、東北のお客さんたちが集る。当才から二才にかけての雪中調教など生産育成の実況を見せるが、合格馬は少ないのだから、いかにばんえいテストが厳しいかが判る。不合格馬の多くは肉馬として売られ、主として九州、長野方面へ売られていく、合格馬は北海道市営ばんえいで十才の引退まで八年間活躍する。今年の三才受験馬は六二二頭合格馬は二二三頭だった。「受った受った」満面相好をくづして喜ぶ姿も無理はない。東北に売られていく馬は一三五万円から一三七万円位であった。

画面は再びみちのくのばん馬大会に移り、次は八戸市が登場、会場は市内の河原にあり大勢の観衆が集っている。参加料は大抵一頭一万円である。勿論馬券はない。櫓は鉄ゾリで重量物はコンクリートブロックだ。ばん馬愛好者は東北各市町村のばん馬競走を渡り歩いていると一年間百万円ではたりねえという。妻は女に金使うよりはいいといつてくれるともいう。今川武美さんはもう六十才だが、愛馬の令秀号が八連勝してからは、もう止められなくなつたという。レースの朝はスタミナドリンク剤を飲ませて、立髪をあみ神棚に手を合せて出かける。二人会場には百頭余りが集っている。二人取法の東北ばん馬大会、時には熱狂して三人になり人も櫓を引つぱる大接戦を演ずる。

最後は山形県舟形町の里町会場は大

満員 選手の一人佐々木一雄さんは芦毛の堂々たる一級馬ワカシンリュウの持主騎手で、もう二二回も優勝し横綱格である。五八年北海道の馬体検査不合格馬だが、立派に成長し堂々たるものだ。四才の頃か砂浜で海水に入れたのは調教を重ねたという。次は十和田市のばんえい大会。同市の今川武敏さんは本業の肉屋を他人に任せばん馬調教に専念、四才のとき二百万円で買入れた愛馬で、年間ぶつ通しばん馬大会を転戦している。最後に三戸町の馬力大会を見せるが、いつも観衆は五、六千人。誠に盛大なみちのくの馬力大会である。

24、七月十八日 NHK・TV

PM 〇・二〇

木曾でロτζを経営する「ひげの細辻さん」は根っから木曾馬に惚れ込み、アイデア四人組と木曾馬について朝まで語り明かす熱心さ。木曾馬は粗野で日本馬特有の短足で、全体が小柄でそこに魅力がある。明年（平成元年となった）岐阜の未来博会場に出陣し是非入場者に紹介したいこの四人組。未来博では「いきいき長良川原流高鷲は」の持ち歌をうたい、そこで木曾馬を紹介するといふ。人馬一体とばかり木曾馬に乗ってチャーチに現れるが、馴しきれず馬は厩舎に飛び込んでしまう。そこから再び現れたときは生後四〇日位の仔馬を連れてくる。細辻さん達、将来大いに繁殖して木曾馬の乗馬クラブをつくるのが夢だといふ。

奥さんのユリ子さんも同調しているが、仔馬は可愛いが、親木曾馬はあまり好きでないともいう。

25、七月十八日 NHK・TV

PM 八・〇〇

北京から二四〇〇キロの中国東北部の原生林と大興安嶺に住む狩猟の民オロチヨン族を語る。面画で活躍するのは七人の乗馬隊、長ひげの老人を長として、白樺や唐松の茂る猟場に向う。馬は毛深く人は毛皮で身を包み密林の深雪を進む。雪は密生する雑草、笹、小枝の上に積もり馬の歩行はらくでない。馬体からは家々と汗の湯気がのぼり湯煙りは一行を包んでいる。

彼等は雪中で寝泊りする場所を簡単につくり上げる。宋宝林さんは一刀の下に白樺を切り倒し道を拓く特技を持ち、博愛構さんは鳥打ちの名人、途中見浦村で聖平私村長から厚手の大布地を贈られ前途を祈ってくれる。冬の獣は毛が長く珍重がられ、この森林地帯のへら鹿（ハンタハン）は世界最大といわれ一頭を発見したが取り逃がす。更に飛び出してきた六才位の猪に発砲したが逃げられてしまう。博愛構さんは口に指をあてて、エゾ雷鳥を呼ぶ。この日はあいにくリストとうさが獲物という不運で夕暮を迎える。夜に喰う分だけに止めたのかもしれない。馬を連らねて川辺の近くに宿泊地をきめ、清麗な流れと枝の茂る中に寝場所をつくる。翌日は村人から棧を借り一日四〇キロの旅になる。密林の日没は三時

である。かくして獣を追って一ヶ月の旅を重ねて目的地に達する。「秘境興安嶺を行く」五〇分。

26、七月二十四日 HBC・TV

AM 八・〇〇

兼高かおるの世界の旅、この日は「野生馬狩り」を見せる。

野生ポニーを島から島へ大移動させる。これはシンコテープ消防署の主催で行なわれ、移動したポニーは売却し、その代金で消防器具を購入するという珍らしい催しである。これは見物の大群が五万人も集るといから正に珍らしい壮観である。

この野生ポニーは四百年前スベイン船が難破して乗っていた馬が、泳いでここにつき生息したものの子孫だといふ。その日集められたポニーは、約百頭。これをシンコテープ島消防署が集めて売る。年一回七月に削蹄し臀部にS烙印を押し、消防署所属の印としている。アサテープ島は湿地帯でポニーのほかにはジャコウねずみ、狐、鷺などが生息し多彩である。

七月末のその当日約一三〇頭のポニーが四百メートルの海峡を渡るのだ。当日は島の道路一杯になって走り、先導する馬に続く蹄音高く海に向う。正に壮観！野犬のような馬は集団で川に飛び込み、川は忽ち泥沼のようだ。そこから上って愈々四百メートルの海峡を渡る壮観を、大観衆は見守る。馬は嘶き乍ら泳ぐ。仔馬もいる。岸に上るときはさすがにグツ

タリとしているが、間もなく鼻を鳴らし乍ら一休みし、草を食み出す。人間が近づいても逃げない。

この島には約二三〇〇人の住民がおり、庭を解放して観衆を入れるのが有料である。この日は、あらゆる交通はストップして、この珍らしい行事を成就させる。

ときには一屯もあるベルジャン、ペルシュロンが混じっていることもあるが、多くは体高八五ないし一〇五センチのポニーである。この島は別荘地で芝生が美しく刈りこまれてきだが、馬達はどこかまわず走り抜けていく。出店もあり、酒もあり全くお祭り騒ぎ。翌日はこの馬達のせり市が開かれるが、少女少女がアイドルとして買い求めていくのが多い。

この日の売却は四〇頭七千ドル、高いのは一〇万円安いのは一万円買入人は五六人だった。売れ残りの馬は再びアサテープ島へ帰る。

27、七月二十九日 STV・TV

PM 〇・〇〇

STV 昼の番組に「思いっきりテレビ」というのがある。この日は北海道さわやか旅行というので、岩見沢ばんえい競馬と夕張メロンの里を、黒顔の歌手松崎しげると万才家マッハ洋七が組んで訪ねる。バック「走れ走れコウタロー」の曲を流しつつ、家族連れが多い場内ファンの中をぶらつき馬券を買う。大型ばん馬に近づいて「綺麗なア」と感心する。やがてレースとなりスタートすると思わず「それッいけいけッ」と熱狂しばんえいを満喫して二人は引上げる。

それから二人は夕張メロンの畑を訪ね、お土産に一個づつ買う。一個二千元という。大きなメロン、銀座なら一万円だと驚きその品の良い甘さに目をみはる。

28、八月十一日 NHK・TV

PM 一六・〇〇

道東の糖路湖畔の農家の息子明広君という中学生のばんえい騎手がいる。大人と同じように五百キロの重量物を積み、毎朝調教をやっている。湖には野生の水鳥が群集して、美しい道東の風景を見せる中、明広君は朝五時から起きると調教にはげむ。

小学校五年生のとき父親からポニーを貰い、それから馬に親しみ馴れたという



調教後の手入れ、蹄洗、汗とりは湖水の岸でやる。

釧路のばん馬大会当日はトラックで愛馬ダイサンミドリを運び、大観衆の前で、堂々の健闘をする。中学生のばんえい騎手に観衆から万雷の声援がおきる。

29、九月二日 NHK・TV

PM八・五〇

レギュラー番組「ぶらり文学散歩」はこの日南部の山野の美しさの中で巨大ばん馬の仕込みぶりをうたう。父親の手綱はバシッバシッと音をたてて、馬の腎にあたるが、十才の息子の鞭はやさしい。

30、九月十四日 HTB・TV

PM・一〇・〇〇

世界の屋根ヒマラヤの岬々たる山峡に、秘境ラダックがあり、そこを訪ねるには、峠から峠を越えつつ二日間かかる。車から降りて土産子に似た精悍な土地馬に乗る。この馬は峻しい山道に馴れており、これを乗り次いで目的地に辿りつく。ラダックの街にはラマ教の僧院があり、四百人の僧が祈禱に明け暮れている。

雲にそびえるヒマラヤ連峰は美しく山麓には広い緑の高原が広がり英国式のポロ競技があったり、土地馬の競馬が行なわれたりする。また豪荘なラマ大寺院があり、ラダック美人のパンやバター作りが紹介される。

(HTBニューステーション)

31、十月十四日 NHK・TV

PM六・五〇

山岳画家として著名な坂本直行は先年



天折したが、彼は北大を出て十勝連峰の山麓で、二頭曳きのプラオを駆使し、開墾生活に入り馬と生活を共にした。かわら山を描き山岳画家として次第に名を知られ、「開墾の記」などを書き、後々札幌に転居して文筆と作画の生活を送った。

32、九月十四日 毎日新聞

この日の十九面は、二段抜き(約半面)で道産駒を特集している。

「開拓の原動力も今は恵まれずノ」ドサンコはいま減り続けて千頭余、ホクの仕事は、サラブレッドの仲人役と北海道開拓の功労馬道産駒を紹介。

五一年に北海道和種馬保存協会ができたものの、日本中央競馬会から受ける年

間二四万円の助成金だけでは、とても間に合わないで、その増殖はいきおい肉用馬主産に頼ることになる。

優駿の里といわれる日高でも道産駒は珍重がられているが、その仕事は「あて馬一試情馬」である。サラブレッドの種付けのため、メスをその気にさせる仲人役だ。毎年四〇頭あまりが日高の牧舎に引取られている。但し仕事柄オスの道産駒でなければならぬ。

釧路管内鶴居村雪理で道産駒牧場をやっている瀬川鶴雄さんは有名だが、維持費のたしにと、本州のお嬢さん方の愛馬ブームで道産駒のオーナー制度をつくり(ドサンコは維持費が安く、年間六七万円ですむ)計画したが、その活用度は未だほんの一部にすぎない。

ところが最近鯨の尾の身にも匹敵する「馬刺し」の味に目を付け、増産に取り組もうという機運が生れている。道産駒の馬刺しは天下一品、一度食べたならやみつきになる。

十勝管内上士幌町の農事組合法人「北海道和種馬組合」(六二年設立)は千頭を目標に道産駒を増殖し、馬刺し用に出荷していこうと計画している。現在一二四頭。

三年に一度位しか子を生まない大型馬と違って、道産駒は毎年子を生むなど増産にはうってつけ、「どうしてこれまで注目されなかったのか不思議なほどです」と渡辺理事長はいう。開拓の原動力として共に歩いたことのある道産駒を肉用と

いう年配者もいるが、やはり絶やしてはならないとする識者も多い。

33、十月十八日 NHK・TV

PM五・三〇

NHKの好評番組午後五時半からの「ワンダーランド」。今日はいろいろな馬とその働きを見せ、人間と馬との交わりの深さを三十分の中で語る。登場するのは東大教授の村良博と山城獣医「草原を駆ける馬」

中央アジアに馬は多い。今でもシルクロードの遊牧民たちは多くの馬を飼って利用し、馬乳を飲んでい。そこには五千年の歴史がある。五千年前の馬の姿、シルクロード遊牧民たち。手練の投縄で逃げ廻る野生馬を捕え首をしめて倒れたところを捕える。少女の搾乳と加工、乗馬隊、戦いなどが展開する。更にギリシヤ、シリアの一人乗り戦車、馬による交通手段、英国古代軍馬装、儀式の馬、米国の幌馬車、鉄道馬車、日本古馬術、内外の馬種など三十分の中で、馬に関する多くの知識を話題とした馬辞典。

34、十月十八日 HBC・TV

PM七・五〇

HBC火曜夜の「ホットナイト北海道」で、北見ばんえいで久田守騎手を取り上げる。広大なばんえい競馬場と附属施設レースの壮観を説明。北見出身騎手の久田守は昭和四五年好成绩を上げ、既に今迄九六六勝。今年は一〇二勝をあげている。この日五レースに出たがあいにく一勝もならず、奥さんの智子さんは「今日

はコンデションが悪いようね」と笑っている。

35、十月二十一日 NHK・TV

PMO・二〇

「馬は友だ」と団しん也、児玉清などのタレントが馬を語る。馬には前歯と奥歯の間に歯がなく、丁度くつわを噛ませるのに都合がよくできている。昔から人間に奉仕した馬の労働力、貢献ははかり知れないと馬通ぶりを発揮する。馬の嘶き、人を振り落す癖馬、砂あび、前掻きなどの習性、空気をのむグイッポ、左右にゆるる態癖という悪癖、NHK大河ドラマ「伊達政宗」で中井貴一は二回もふり落されたという話。

東京学芸大学市川武雄先生の話では、東京でも昔は馬が大いに働らいており、新宿には馬の水飲み場だった水槽が今でも残っているという。各町村には最良の交通機関として駅運があり、役人は馬又は馬車を乗り次いで通信や荷物を運んだ。馬は又最高最大の軍事力で馬数で勝敗が決つたとさえ言われた。駄載は馬特有の運搬力で道産馬による「だんづけ馬」の話は既述の通りだ。

木曾馬で著名な六浦一怯さんも在来種の優秀さを語ればつきないという。最後に東京江戸川ポニーランドの子供無料乗馬を紹介して終る。

36、十月二十八日 NHK・TV

PM六・〇〇

馬の愛好者といってもこれは女性が多くほとんどが初心者で、胆振大滝村から

洞爺村まで約四五キロを乗馬行進するのかなかの壮挙である。

紅葉に包まれた橋を渡り溪流では一休み、釣りを楽しむおばさんもいる。馬は道産駒だが、ばん馬も一頭加っている。みな温順である。一日目の三〇キロを終りキャンブになる。幹事の青木明郎さんはジンスカスキャンにビールを傾けながら、洞爺の秋は暖かい、晩秋のこの企画は毎年やりたい、全国から集って欲しいとかなかの元氣。

37、十一月二十日 HBC・TV

PM八・〇〇

広大無辺、正に例えようのないほど広い中国の奥地シルクロード、チベットの大砂漠、山野の大草原には常につきない話題がある。この日のナレーターは俳優の名古屋章。

つい最近死んだチベット最大のヤク、その生前を偲ぶ話から始まり、砂漠の旅人とヤク、駱駝、羊とのつきあい、大山野を駆け巡る数千頭の放牧馬、ラマ大宮殿と神の山を周廻しつつ何年もかかって、五体投地の礼拝を重ねていく男女礼拝者の姿。ラマ寺院に学ぶ学生僧徒の群、大羊群、駱駝の隊商など。太平洋戦乱時代の秘境などを見せる。そこには日本軍の砲車や砲弾の残骸さえところがついている。秘境の中に広がる草原ではお祭りや競馬もあり、一周三千メートルのロープを張りめぐらした馬場ができ、野生の競馬が始まる。少年の組では十二才の少女が勝つ。売店がならび大群衆が集ってくる。

夥しい大羊群、羊の搾乳、燃料の糞ひろい、だん茶など我々には一寸馴じみにくい習慣が多い。終りに日本名西川和美、蒙古名ローサンという参謀の話が出る。

彼は単身で日本の密使として、ラマ朝の僧となり活躍したが、功半ばにして終戦となり、無駄な活躍に終わったという。豪壮なチベット・ラマ朝と、広大な草原を描き乍らこの大ドラマは終る。

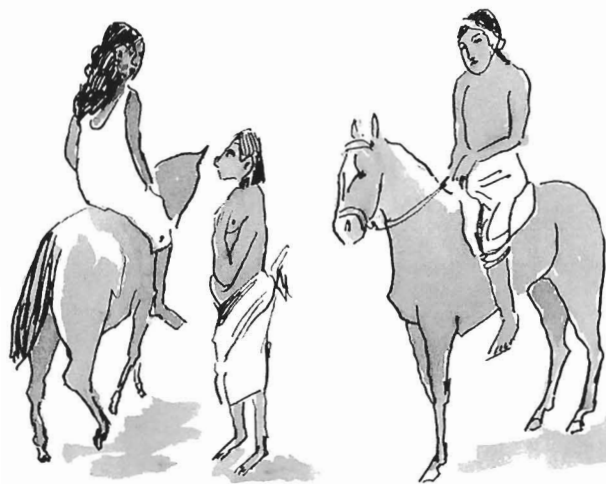
38、十一月二十二日 HTB・TV

PM八・〇〇

カナダ北方のアリリウシユモス村の海岸では、ばん馬型の馬に籠を背負わせて

海草とりをしている珍しい風習を見せてくれる。

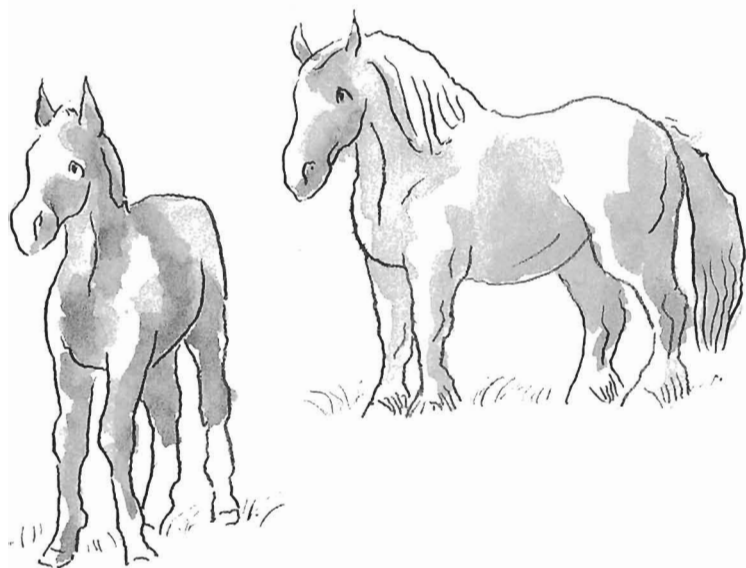
これはHTBの特集「カナダ・水河と森の大地」の中に出てくる珍らしい一村落の風習である。カナダは又森と湖沼の国といわれ、広さにおいて世界第二といわれる大地に、散在する湖沼は大小数千に及ぶといわれ、国土を覆う大森林地帯の中に鹿に似た数千頭のカリブーの大群が駆け抜け、漁獲二百万トンといわれる鮭が大群を成して河を登ってくる。北辺の海には氷河の断崖があつて、海中に大崩壊する壮観が見られる。



39、十一月二十五日 NHK・TV

PM九・〇〇

アフガニスタンはアラブ地方と同じく、古くから優秀な乗馬生産に恵まれた国だが、これは数百人の騎士が全速力で馬を走らせ、その速力を競いつつ仔牛の死体を奪い合うというスポーツを見せる。その精悍な駿馬の疾走は圧巻である。しか



し勇壮とはいいい乍ら残酷とも思われるが、このような風習は中国の山岳地方でも行なわれている。観衆は熱狂して危険なので、当日政府は厳重な警戒に当たるとい

40、十二月二十五日 NHK・TV

PM五・三〇

NHK午後五時半からのレギュラー番組「ワンダーランド」は、再びモンゴル

の馬を主とした畜産を見せる。なんでも博士は外蒙古大使館三等書記官チエルアミナチン氏、外蒙大学の外語教授である。外蒙も内蒙と同じく畜産は産業の中心となっている。ララビさんは六五才で牛乳をしほり、馬の世話をし草原で羊を追う。これらは老人の仕事となっており、若者達はあまりやらず力仕事が主だ。野狼の数は多く馬も羊も襲われる。これを守り撃ちとるのが男の仕事だ。男はわざと集合し攻撃に移る。今日は八騎が集団で襲撃する訓練だ。この地方の人達は意外に着道楽で、衣服には金をかける。馬乳酒を造るのがうまい。馬乳からは乾燥ヨーグルトを造り、牛乳からはバター、チーズをつくる。羊肉と牛肉はよく食べるが、馬肉はあまり食べない。家畜の仔は五月頃集中して生れる。

外蒙の宿舎はゲルという。食器は大きな皿鉢とナイフと箸が組み道具となっている。農民達は羊の仔が生れると互に交換して種族の改良をはかったりする。じやじや馬ならしは外蒙農民の得意技術だ。落馬しても傷はない、落ち方がうまいのだという。



ばんえい便り

1、競馬監査

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に左記の日程でこ来場になり、熱心な監督とご指導を戴いた。

7月19・20日 岩見沢競馬場

菅野・田辺両監督官

9月11・12日 旭川競馬場

猪股・鈴木両監督官

10月8・9日 北見競馬場

菅野監督官

11月27日 帯広競馬場

武井監督官

2 千客万来

4月29日 北海道新聞社竹村支局長来場

5月16日 藤沢市市議会議員6名来場・倉敷市市議会議員12名来場

6月6日 HBCテレビ仁保支局長来場

6月19日 全公営加藤事務局次長来場

7月3日 神奈川県公営事業所一行10名来場

7月6日 新潟県市議会議員7名来場

7月12日 岐阜県振興公社15名来場

7月31日 東京観光ツアー一行60名来場

8月6日 忠和老人クラブ35名来場

8月7日 東芝日曜劇場映画ロケ

8月21日 女優古手川祐子他来場

8月21日 外国女性騎手一行9名来場

9月3日 高知県競馬組合議員14名来場

9月12日 特別区競馬組合副管理者遠藤氏他1名来場

9月24日 三升家勝治他HBC関係者一行来場

10月3日 北見老人クラブ一行来場

11月13日 ホッカイドウ競馬事を次長山本氏来場

11月19日 保安協会高畑理事長他1名来場

11月22日 馬事協会那須理事他5名来場

(1) 「ばんえい婦人教室」大盛況

全道のトップを切って開幕した岩見沢競馬で、5月4日、第5回レディースカップ競走にちなみ、女性ファンを集めて「ばんえい婦人教室」が開かれた。

競馬はギャンブルと敬遠しがちな女性に、ばんえい競馬のダイナミズムを知ってもらい、ファン層の拡大を図るのが狙いで、今年で5回目、女性入場者も本場入場者の29・4%の九三一名とさすがに多く、本会鈴木参与の「馬の見方」や「馬券の買い方」の解説を熱心に聞き、終了後全員に記念品の進呈があり、ニコニコ顔でスタンドに散って行った。

(2) 一レースに同着二件の珍事

一着と三着がそれぞれ同着という珍しいケースがあった。

6月14日帯広競馬の第4レース、四・五才条件レースの9頭立。ゴール前鋭く追込んだ②アイアンジャガー(金山)と④イシカリオーザン(木村)の2頭が激しいデッドヒートの末、決着つかず一着同着。また三着も逃げる⑨マルマツヒメ(今井)と追込んできた⑥ホクトヒカリ(千葉)が同着となり、ばんえい史上初のケースとなった。

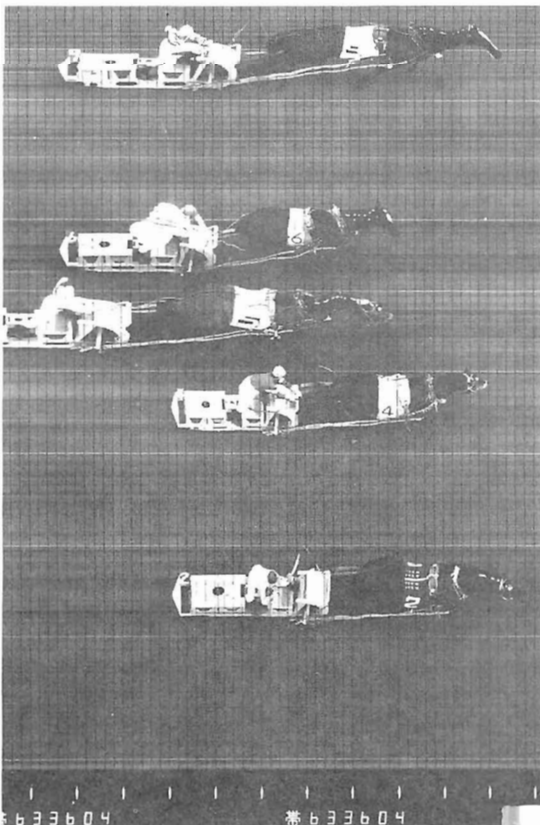
配当金は、連複②④九二〇円、単勝式②一四〇円④三四〇円、複勝式②一〇円④二〇円⑥三六〇円⑨一七〇円

場外発売日数の増加に伴い、場外フェア

(3) 水分発表一日六回に倍増

場外発売日数の増加に伴い、場外フェア

(同着)



(同着)

ンの勝馬検討の重要なファクターの一つとして、最も関心のある馬場水分の発表を、6月19日の第4回岩見沢競馬から倍増の6回とし、ファンサービスに努め好評を得た。

従来は、午前9時、3レースと6レース終了後の3回であったが、今回からは、午前9時、10時15分、2、4、6、8レース終了後の6回とし、約1時間毎のデータを発表できる体制とした為、ファンに大変喜ばれた。

(4) 高宮獣医師逝く



昭和五十五年度から本会家畜診療所で獣医師として執務してきた高宮喜男氏は、6月初旬に肝臓の調子が悪くなり、6月11日から市立江別総合病院に入院加療中であつたが、7月1日急に病状悪化して肝硬変症の為他界された。享年63才。

豪放快楽な性格で、技術的にも厩舎関係者から厚く信頼されていた人物であつただけに、惜しまれてならない。

深く哀悼の意を表します。合掌。

(5) 木村騎手夏の重賞三連覇

一三〇〇勝突破の大ベテラン木村騎手は今年も健闘、特に7月17日の岩見沢記念をホマレカップで、7月20日のばんえい文月賞をミドリゴゼンで、旭川に転戦して7月24日の層雲賞をアサヒキロクで優勝、重賞三連覇の偉業を成しとげた。

過去の重賞連勝記録は、尾ヶ瀬調教師が騎手時代に達成した、59年の旭シルバークップ、層雲賞、全協賞、オナシス記念の四重賞を、キンタローとキンタイコ一で四連覇したのがレコードであるが、三連勝は58年の尾ヶ瀬調教師、59年の工藤元騎手も達成している。

尚木村騎手は、5月3日には6戦5勝のタイレコードも樹立している。

(6) 一万回騎乗騎手二名誕生

金山、木村両ベテラン騎手が、1日6

騎乗制限時代としては至難の一万回騎乗



（ニュージールランドのお客さん）

の大記録を達成した。

金山騎手は、昭和44年初騎乗以来20年目の8月7日で一万回を突破、本年最終の通算成績は一〇、五一二戦一、七九二勝、勝率17・04%の好成績であった。

木村騎手は、昭和43年初騎乗以来21年目の9月25日で突破、一〇、二五八戦一、三一六勝、勝率12・83%であった。

平成元年度からは、金山騎手は二千勝に、木村騎手は一、五〇〇勝に向って、より一層の精進を祈るものである。

(7) ニュージールランドのお客さん

8月21日、旭川競馬場にニュージールランドのタウンガ市でベイ・オブ・ブレインティ競馬クラブの会長を務めるピーター・シモンズさんとノービー夫人が、美人女性騎手2名とその妹（写真右側）をつれてばんえい競馬を見学に来た。

2名の女性騎手は、ホッカイドウ札幌競馬の外国招待女性騎手レースに騎乗する為に札幌に来ていましたが、たまたま休日をを利用して来旭したもので、キム・シニー・クラブ・バートンさん（写真左側）は20才、通算一、二五八戦一一七勝、セレーヌ・ペーンさん（写真右から二人目）は19才、通算一、一八〇戦一一五勝で、ニュージールランドでは共に中堅以上の成績をあげている騎手とのこと。

発走地点での見学中には、茶目つけたっぷりにばんえい競走馬の大きな背中にまたがってみるやら、ばんえい騎手と記念写真を撮るやらの大モテ振りでした。

尚シモンズご夫妻は、昨年、岩見沢

訪に引続き2度目のばんえい訪問となり、馬券なども楽しんでいた様子です。

(8) 灼熱のお盆競馬

昨年度の北見の師走競馬は酷寒零下20度で日本一寒い競馬でしたが、13年振りで開催した旭川のお盆競馬は、むちゃくちゃに暑い競馬で人馬共にのびてしまいました。

7月24日に開幕の第1回旭川競馬は、初日から早くも最高27・8度まで水銀柱は昇り、6日目の8月1日は30度、6日間平均27・3度の夏日を記録し、8月6日から15日までの6日間は、8月8日の30・6度を最高に6日間平均28・1度となり、北海道の常識からすればお盆を過ぎれば秋風が吹くことになっているはずが、8月16日から23日のお盆後半競馬は



（テレビロケ）

常識外の酷暑が連日続き、特に20日から23日の4日間は平均31・9度の真夏日となり、人も馬もすっかりバテ気味の競馬となった。

(9) 旭川競馬場でのテレビロケ

8月6日旭川競馬場でHBCが制作する東芝日曜劇場「週末の恋人」のテレビロケがあった。

クラブホステス役の「古手川祐子」と新聞記者役の「矢崎滋」の二人が、旭川競馬場で競馬を楽しむシーンで、スタンドでは既舎関係者がにわかエキストラに駆出されて大熱演。

自分の店を持つことを夢見てパトロンを捜す古手川と、同じアパートに住みほのかな恋心をいだき足しげく古手川の部屋にやってくる矢崎と、妻に先立たれ一人住まいの初老で、週末に古手川に会うことを楽しみにしてクラブに通い、資金提供者となる「大滝秀治」の三人が、それぞれの持味を十分に発揮してドラマを盛り上げたHBC制作の久々のヒット作品であった。8月18日全国放映。

(10) 紙上を賑わしたばんえい賛否論

7月の北海道新聞「読者の声」欄に、ばんえい競馬を取り上げた賛否両論の意見が連続して登載され、紙上を大いに賑わしたが、この様にばんえいに関心のある記事が数多く登載されたことは、ばんえい史上初のケースであり、参考となる意見も少なくなかった。

7月7日 ばんえいを苦しめるばんえい一考を



(勇退調教師)

7月13日 ばんえい競馬は本道に似合わぬ

7月17日 ばんえい馬が哀れ

7月18日 ばんえいは馬の力量を試す

7月19日 競技

ばんえい競馬は馬を生かす

7月25日 場所

ルールを決めたばんえいな

ら賛成

7月29日 ばんえい競馬のルール変えては

(11) 減量騎手の連勝記録

減量騎手の新人野口君は、9月5日第5回旭川競馬の初日で、2R、4R、8Rと3戦3連勝、翌6日の6Rを含めると4戦4連勝となり、また第5回旭川競

馬の6日間では、19戦10勝、勝率52・6%の高率で1開催新人騎手の勝利度数及び勝率のレコードを作った。

二年目の減量騎手森君は、11月15日第4回帯広競馬第4日目で、3R、4R、7Rと3戦3連勝、翌16日、4R、5Rと2連勝で2日間にわたり5連勝のレコードを作った。

(12) パーフェクト競馬レコード更新

一開催6日間に、人も馬も制裁処分のない、安心してファンに見てもらえる立派な競馬を開催することは、至難の事であり、過去の記録としては、昭和56年度に第3回と第5回の北見競馬で、年間2回達成の記録があったが、本年度は、第4回と第5回の旭川競馬及び第6回の帯広競馬で3回達成の大記録を樹立することができた。特に例年4競馬場の中で、制裁件数の一番多い旭川競馬場で2回も達成できた事は、奇跡的な事実であった。今後も全開催パーフェクト競馬を目標に努力し、ファンに迷惑のかららない公正競馬を開催したいものである。

(13) 今年の勇退調教師

本年度の最終日12月7日帯広競馬場で調教師2名の勇退表彰式が行なわれた。永年に亘りばんえい競馬発展の為に尽力された、鶴沼正吉、本沢政一の両調教師は、仲間の調教師、騎手の拍手で見送られ、今年度かきりて競馬場生活にピリオドを打たれました。長い間ご苦労様でした。祈ご健勝とご多幸。

(14) 農水大臣賞兄弟馬で一、二着

ばんえいの最高峰農林水産大臣賞典競走の一、二着が、母馬ブル系「能信」の産駒の兄弟馬で制覇し、ばんえい史上初のケースとして話題になった。

一着馬は、ニューフロンテア号(父ペルジャン・ジャンデュマレイ)、雄、栗毛、6才

二着馬は、タカラフジ号(父半血タカラコマ)、雄、栗毛、8才

で、異父兄弟のオープン馬ニューフロンテア号は初挑戦で栄冠を手にしたが、タカラフジ号は60年出走取消、61年キンタロー号の7着、62年ハクマサヒカリ号の2着で、本年度も実力No.1で一番人気となりながら、2年連続2着で涙を飲んだ。

尚、能信号は前記2頭の他に、53年生のキタノミカサ号、61年生のタカラヒカル号の母馬でもあり、また、オープン馬マサライデン号の母馬吹姫(父半血タカラコマ)は能信号の娘で、タカラフジ号の全姉である。

(15) 久田騎手年間最多一三〇勝

久田騎手は62年度は怪我に泣き82勝に留まったが、63年度は春から快調にとばし、金山騎手の持つ60年度一二八勝のレコードを更新し、年間一三〇勝の大記録を樹立した。

年間一〇〇勝突破は騎手として一つの勲章であり、現役騎手では、金山(49年以降56年を除き14回)藤本(61年)西康(62年)の3君に次ぎ4人目、通算6人



(久田騎手)

目(山田・工藤両君)の偉業で、47年初騎乗以来通算九九六勝、現役3人目(金山・木村両君)の一、〇〇〇勝騎手に王手を掛けた。

(16) キタノシンザン号八連勝

5才秋になって開花した、キタノシンザン号の活躍は目覚ましいものがあつた。春先は四〇〇万円未満の条件クラスでスタート、9月旭川終了時点で4勝五五〇万円未満までクラスが上がったが、北見に入厩してから平場1鞍、特別4鞍と5連勝、帯広に転戦してからもその勢い留るところを知らず、特別を3連勝してばんえい史上第2位の8連勝を成しとげた。本年度成績は、23戦12勝、2着3回で連対率65・2%、取得賞金五七二万円、

通算九三万円得準オープン目前となつた。血統は、父ベル系サロマシンザン号(元オープン馬)母ベルジアン、ロドニース・ジョイジェー号(米國産輸入馬)生産者新得町小川弘志氏、平成元年も金山騎手とコンビで活躍が楽しみだ。尚連勝記録は、48年のジョウホウ号の9連勝がレコードである。

(17) 帯広スタンド防寒施設の完成

近年のばんえい競馬は、最終回が12月に入り込み、雪の少ない帯広が北見でなければ開催できない日程になってきた。

63年度の帯広競馬の最終日は、経験のない12月7日。北西の寒風がスタンド正面から吹つける寒いスタンドに、風防施設が10月に完成した。スタンド正面にガラス張の電動式シアッターを設置、暖かい日は上に巻上げて風通しを良くし、寒い日はジェットヒーターで暖をとる、温室の様だとファンの大好評を得た。

北見競馬場は61年に設置済なので、冬のばんえい競馬はもう大丈夫。

(18) 雪の中のツルツル競馬

第5回帯広競馬第4日(11月26日)は午前6時頃からチラチラ雪が降り出し、正午過ぎまでに積雪約10cm、競馬場は一面の銀世界となった。

第2レース終了後の走路整備のハローかけが終つた直後から猛烈に降り出し、走路は真白に雪が積り出す未、第3レースは発走地点が見えない程降りしきる中でのスタートとなり、全馬駆歩で雪煙をあげてばく進、タイムは56秒0の早い



(雪中競馬)

タイムでゴールデンとなった。

尚最高タイムは、昭和47年11月11日岩見沢競馬場の雪中競馬で、ユウテン号の37秒4が全道レコードとなっている。

(19) ばんえい一部事務組合の設立

道内四市営競馬の永年に亘る懸案事項であつた一部事務組合が、本会を母体として、平成元年4月から「北海道市営競馬組合」として発足することになった。

昭和43年に一部事務組合の設立を前提として、北海道市営競馬協議会が設立されてから早くも21年の歳月を経過したが、その間組合設立に向つては、紆余曲折、難産に難産を重ねても設立の目処が立た



ず、それぞれ開催条件の異なる四主催者を一元化する困難さに、四市とも一時は手上的状況に迫込まれた事もあつたが、昭和61年度から2年間を目処として、遅時ながらプロジェクトチームが編成され、四市から各一名の出向職員が札幌に派遣されて設立に向つて鋭意取り組むことになった。

しかし昭和63年春の設立は残念ながら流産となつたが、その後一年遅れの昭和64年春の設立に向つて急速に設立事務が進行、念願の組合設立に漕ぎつけることができた。

組合事務所は旭川市に設置、開催回数 は年23回、利益金の配分は四市で均等配分となる予定。

「平成元年」記念すべき年の組合発足であり、ばんえい競馬飛躍的發展元年となることを祈るものである。

昭和63年度種雄馬ランキング

3 才

順位	種 類	馬 名	頭数	出走回数	勝利数	取得賞金(円)	1頭平均	前年順位	主 な 産 駒
1	半 血	タカラハヤブサ	17	323	43	22,974,500	1,351,400	2	ハチノタロー、キングドラゴン
2	ベルジ	ジャンデュマレイ	13	236	31	19,564,000	1,504,900	1	レイショウ、マルミトウショウ
3	ベルジ	マルゼンストロングホース	13	249	28	19,322,000	1,486,300	3	マルゼンバージ、タカラヒカル
4	ブル系	キタノテンリュウ	12	226	32	16,738,000	1,394,800	8	キタノホープ、シゲテンリュウ
5	半 血	ハクリユウ	5	95	14	14,476,000	2,895,200	10	ヒメリユウ、カネキホマレ
6	半 血	ゴウカイ	13	235	21	13,409,000	1,031,500	6	ダイホウザン、サクラヒカリ
7	半 血	カイリキ	9	175	16	13,025,500	1,447,300	—	キンカイ、ニューカイリキ
8	ベルジ	ロムビル	2	31	8	9,613,000	4,806,500	21	ダイニタカラ、キンオージャ
9	半 血	マツイサム	3	45	7	9,581,500	3,193,800	37	カゲイサム
10	半 血	富士	6	122	12	8,371,000	1,395,200	9	テルダイリン

4・5才

順位	種 類	馬 名	頭数	出走回数	勝利数	取得賞金(円)	1頭平均	前年順位	主 な 産 駒
1	ベルジ	ジャンデュマレイ	22	530	59	41,969,000	1,908,000	3	スーパージャンディ、マルミオーカン
2	半 血	タカラハヤブサ	18	361	43	28,135,000	1,563,100	1	キタノプリンセス、ヒメハヤブサ
3	ベルジ	マルゼンストロングホース	8	151	22	18,265,000	2,283,100	8	チカラトウショウ
4	半 血	アサミドリ	6	125	19	17,632,000	2,938,700	9	ダイコークイン、ミドリゴゼン
5	半 血	ゴウカイ	9	195	19	16,622,000	1,846,900	16	ゴーニテンリュウ
6	ブル系	キタノテンリュウ	10	207	25	16,496,000	1,649,600	2	キンコウエイ、テンショウリ
7	ベル	二世ロッシーニ	8	171	21	12,775,500	1,596,900	7	ハヤキンショウ、ダイコウヒメ
8	半 血	マツノコトブキ	5	102	19	12,040,000	2,408,000	6	ヤマトニシキ
9	ベル系	サロマシンザン	4	87	25	10,852,000	2,713,000	21	キタノシンザン
10	半 血	富士	6	122	16	10,527,500	1,754,600	13	ホッカイリュウ

6才以上

順位	種 類	馬 名	頭数	出走回数	勝利数	取得賞金(円)	1頭平均	前年順位	主 な 産 駒
1	ベルジ	ジャンデュマレイ	26	538	46	54,026,000	2,077,900	3	ニューフロンテヤ、センショウリ
2	半 血	タカラコマ	27	489	41	51,065,000	1,891,300	2	タカラフジ、ツキムサシ
3	ベルジ	マルゼンストロングホース	17	326	32	43,735,000	2,572,600	4	ハクタイコー、ツキノレデー
4	ベル	二世ロッシーニ	21	436	37	31,549,500	1,502,400	1	ダイニコウヒメ、キンタカラ
5	ベル	楓朝	13	248	27	20,428,000	1,571,400	5	キンタイコー、ハヤカツ
6	ベル	第二オデオン	6	110	13	18,592,000	3,098,700	14	ホマレカップ、チカラオーザ
7	半 血	マツノコトブキ	1	16	2	11,255,000	11,255,000	—	ヒカルテンリュウ
8	半 血	タカラハヤブサ	10	200	15	10,137,000	1,013,700	11	アメヒメ、チカラハヤブサ
9	ブル系	キタノテンリュウ	5	97	15	9,905,000	1,981,000	—	キタノリュウ、テンリュウクイン
10	ベル	松の竜	4	87	8	9,850,000	2,462,500	15	アキード、マツノフジ

昭和63年度賞金受賞ランキング

3 才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	カゲイサム	半血 マツイサム	半血 紀市	牡	3	音更町	岩田時晴	7,811,500
2	ダイニタカラ	ベルジ ロムビル	半血 第三宝姫	牡	3	足寄町	村上孝三	6,863,000
3	ヒメリユウ	半血 ハクリユウ	半血 カツヨ	牝	3	小清水町	片平信淵	6,297,000
4	レイショウ	ベルジ ジェンデュマレイ	半血 栄姫	牡	3	上士幌町	南相圭	4,642,000
5	カネキホマレ	半血 ハクリユウ	半血 コウエイヒメ	牡	3	常呂町	佐藤秀雄	4,499,000
6	キンカイ	半血 カイリキ	半血 雪花	牡	3	足寄町	石井寅一	4,184,500
7	マルミトウショウ	ベルジ ジェンデュマレイ	ベル系 松姫	牡	3	幕別町	国枝光明	4,017,000
8	マルゼンバージ	ベルジ マルゼンストロングホース	ベルジ チェンスジュル	牡	3	帯広市	三井樹雄	3,634,000
9	ストログクイン	半血 マルトセンショー	半血 第二フクタカラ	牝	3	浦河町	河野シズ	3,575,000
10	ハチノタロー	半血 タカラハヤバサ	半血 松栄	牡	3	足寄町	川上米吉	3,189,500

4・5才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	チカラトウショウ	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 朝姫	牡	5	深川市	谷美喜男	9,100,000
2	ダイコークイン	半血 アサミドリ	半血 ツガルホマレ	牝	5	森町	笹川勝弥	6,530,000
3	ゴニテンリュウ	半血 ゴウカイ	半血 五十二太洋	牡	5	弟子屈町	坂野一弥	5,957,000
4	キタノシンザン	ベル系 サロマシンザン	ベルジ ロドニスジョイジュ	牡	5	新得町	小川弘志	5,722,000
5	スーパコマヨシ	半血 ハシリコマ	半血 第一初姫	牡	4	美深町	南日出男	5,600,000
6	ヤマトニシキ	半血 マツノコトブキ	ブル系 キブ姫	牡	5	池田町	京極広	5,225,000
7	キンシャドー	ベル系 スイショウ	ベル ジャバ	牡	4	本別町	本寺頼勝	5,185,000
8	カツマサオーカン	半血 ハクリユウ	半血 松姫	牝	5	常呂町	馬木定雪	5,112,000
9	イエヤス	半血 アラミノル	半血 クシロホープ	牡	5	佐呂間町	紫田秀男	4,987,000
10	キタノプリンセス	半血 タカラハヤバサ	半血 ダイニハルヒメ	牝	4	上士幌町	鈴木義尚	4,970,000

6才以上

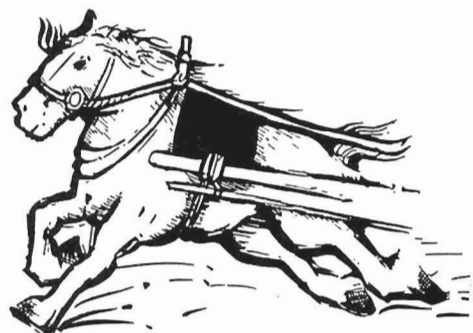
順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	タカラフジ	半血 タカラコマ	ブル系 能信	牡	8	豊頃町	川向義信	17,735,000
2	ニューフロンテヤ	ベルジ ジェンデュマレイ	ブル系 能信	牡	6	豊頃町	川向義信	14,235,000
3	ホマレカップ	ベル 第二オデオ	半血 宝姫	牡	6	足寄町	後藤有弘	11,545,000
4	ヒカルテンリュウ	半血 マツノコトブキ	半血 第二太陽	牡	6	池田町	牧野一	11,255,000
5	ハクタイコー	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 エリザリユ	牡	8	早来町	遠藤久夫	5,835,000
6	ツキノレデー	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 菊姫	牝	7	早来町	長谷川均	5,760,000
7	センショウリ	ベルジ ジェンデュマレイ	ベル 第二栄花	牡	8	幕別町	万藤茂太郎	4,870,000
8	カネミフロンティア	半血 ゴウカイ	半血 第二栄花	牡	7	中標津町	池田明	4,590,000
9	ロイヤルホース	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 呂博	牡	10	北竜町	道下義三	4,575,000
10	ダイニコウヒメ	ベル 二世ロッシーニ	半血 幸姫	牝	7	北見市	八木沼義雄	4,494,000



アサヒテンリュウ号

- 1. 生年月日 昭和54年3月23日
- 2. 生産地 釧路市
- 3. 生産者 道下和敏
- 4. 通算成績 169戦15勝
- 5. 取得賞金額 21,051,000円
- 6. 性・毛色 牡栗
- 7. 血統

半血 魂旭
 ┌ ベルジ コンエレガント
 └ 半血 第二旭秀



昭和63年度 引退馬



オーロシニ号

- 1. 生年月日 昭和54年5月10日
- 2. 生産地 網走支庁 訓子府町
- 3. 生産者 林 茂
- 4. 通算成績 171戦18勝
- 5. 取得賞金額 13,109,000円
- 6. 性・毛色 牡鹿
- 7. 血統

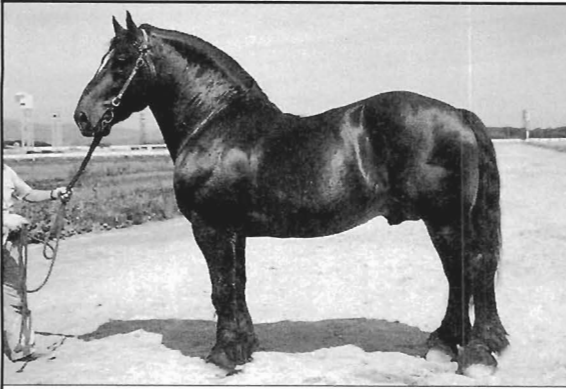
半血 露桜
 ┌ ベル 二世ロッシーニ
 └ 半血 若桜



アメリカンホース号

- 1. 生年月日 昭和54年4月10日
- 2. 生産地 帯広市
- 3. 生産者 三井樹雄
- 4. 通算成績 178戦24勝
- 5. 取得賞金額 14,454,000円
- 6. 性・毛色 牡芦
- 7. 血統

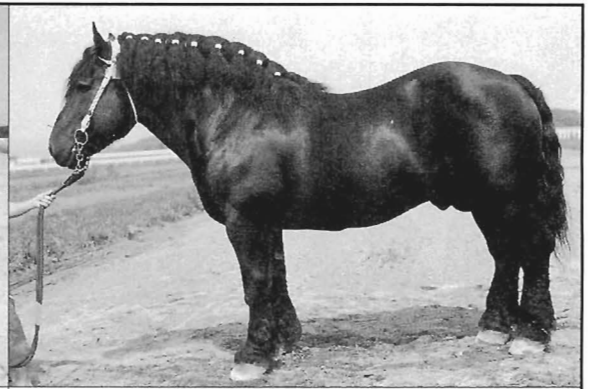
ベル 力道
 ┌ ベル カウント オン イット
 Count On It
 └ ベル フリース マート
 Furrys Mart



カワキタシンザン号

1. 生年月日 昭和54年4月9日
2. 生産地 根室支庁 標津町
3. 生産者 榎木 慶矩
4. 通算成績 166戦20勝
5. 取得賞金額 12,194,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

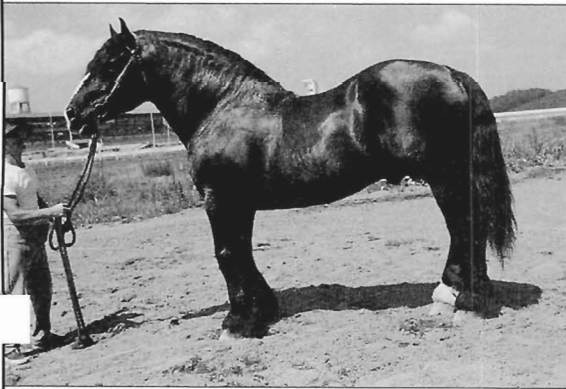
ベル系 金華王 — [ベル 二世ロッシーニ
半血 第二金星



カネマルニシキ号

1. 生年月日 昭和54年4月15日
2. 生産地 紋別市
3. 生産者 高橋 盛行
4. 通算成績 138戦13勝
5. 取得賞金額 8,000,500円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

半血 銀山 — [半血 第一ボヌール
ベル 金山

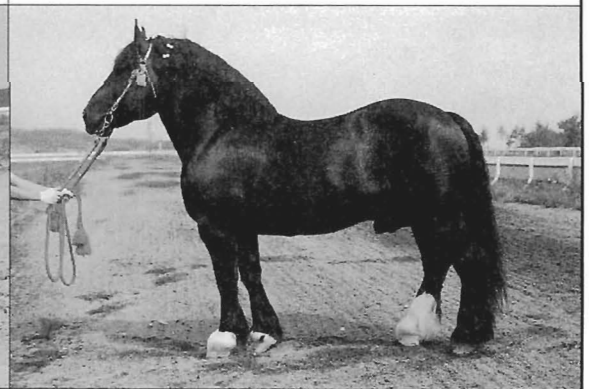


シゲノハラニセイ号

1. 生年月日 昭和54年3月28日
2. 生産地 網走支庁 訓子府町
3. 生産者 林 茂
4. 通算成績 148戦27勝
5. 取得賞金額 33,154,000円
6. 性・毛色 牡 黒鹿
7. 血統

半血 第二シゲノハラ — [ベル 二世ロッシーニ
半血 日光

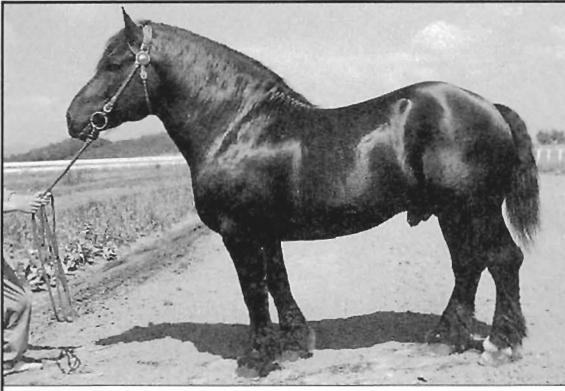
⁵⁹イレーネ記念 ⁵⁷ばんえい菊花賞



キヨユキ号

1. 生年月日 昭和54年3月2日
2. 生産地 網走支庁 東藻琴村
3. 生産者 妻方 格次
4. 通算成績 154戦22勝
5. 取得賞金額 19,556,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

半血 躍進 — [ベル 二世ロッシーニ
半血 華秀

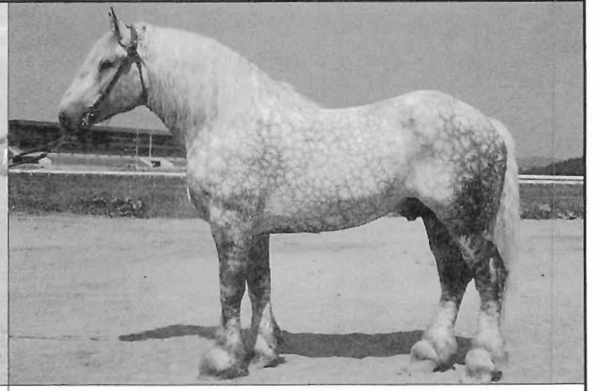


ジャケツト号

- 1.生年月日 昭和54年5月28日
- 2.生産地 帯広市
- 3.生産者 梅本富夫
- 4.通算成績 164戦16勝
- 5.取得賞金額 9,896,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

半血 北の宝

〔半血 タカラコマ
 〔ベル系 第二世日の出

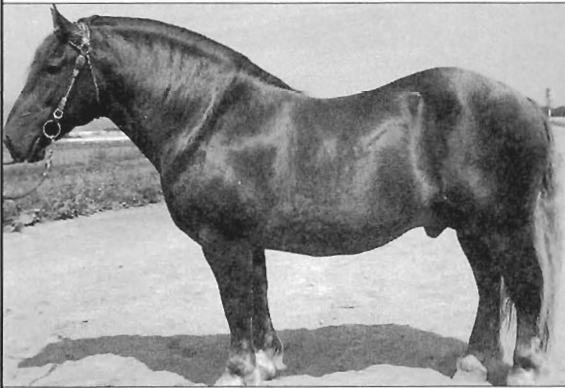


シマノオーザ号

- 1.生年月日 昭和54年4月24日
- 2.生産地 富良野市
- 3.生産者 嶋田孝四郎
- 4.通算成績 129戦19勝
- 5.取得賞金額 20,483,000円
- 6.性・毛色 牡芦
- 7.血統

半血 宝玉

〔半血 タカラコマ
 〔ベル系 玉姫

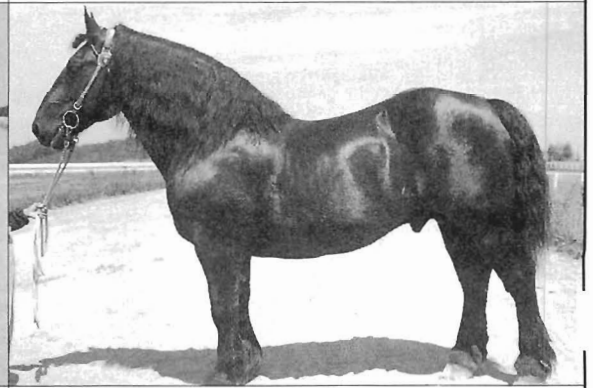


タカラソウシン号

- 1.生年月日 昭和54年4月5日
- 2.生産地 十勝支庁 豊頃町
- 3.生産者 門寿雄
- 4.通算成績 135戦19勝
- 5.取得賞金額 25,184,000円
- 6.性・毛色 牡栗
- 7.血統

半血 大宝
 57 文月賞

〔半血 タカラコマ
 〔重半血 昭宝

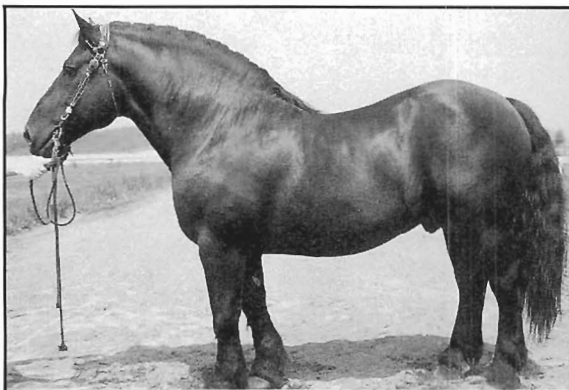


タカラショウリ号

- 1.生年月日 昭和54年4月2日
- 2.生産地 十勝支庁 池田町
- 3.生産者 野村弘信
- 4.通算成績 150戦14勝
- 5.取得賞金額 34,478,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

半血 玉竜
 57 ばんえい大賞典

〔半血 タカラコマ
 〔ベル系 第十一玉姫



チカラオーザ号

- 1.生年月日 昭和54年4月17日
- 2.生産地 十勝支庁 足寄町
- 3.生産者 青木 栄
- 4.通算成績 152戦26勝
- 5.取得賞金額 18,133,000円
- 6.性・毛色 牡 青
- 7.血統

半血 光雄 — ペル 第二オデオ
半血 光栄



ダイニカイリキ号

- 1.生年月日 昭和54年3月20日
- 2.生産地 十勝支庁 足寄町
- 3.生産者 山岡 義治
- 4.通算成績 171戦15勝
- 5.取得賞金額 13,877,000円
- 6.性・毛色 牡 枳栗
- 7.血統

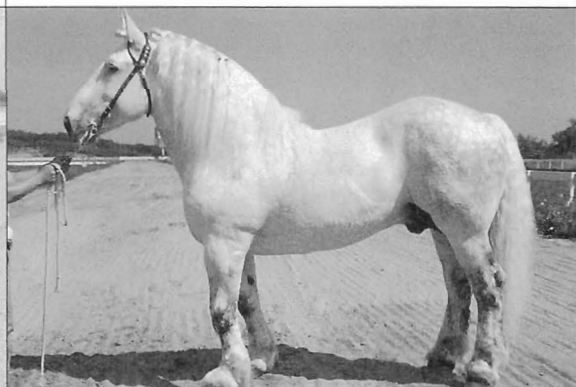
ベル系 第二快力 — ペル 第二オデオ
重半血 協姫



テラノジョージ号

- 1.生年月日 昭和54年4月14日
- 2.生産地 十勝支庁 池田町
- 3.生産者 野村 弘信
- 4.通算成績 172戦17勝
- 5.取得賞金額 19,694,000円
- 6.性・毛色 牡 青
- 7.血統

半血 竜宝 — 半血 タカラコマ
半血 ライモク



ツキホシ号

- 1.生年月日 昭和54年3月6日
- 2.生産地 十勝支庁 音更町
- 3.生産者 十勝種畜牧場
- 4.通算成績 172戦18勝
- 5.取得賞金額 14,589,500円
- 6.性・毛色 牡 芦
- 7.血統

ベル 林 孝 — ペル 楓石
ベル 仁路



ニッセイヒリュウ号

- 1.生年月日 昭和54年4月30日
- 2.生産地 十勝支庁 幕別町
- 3.生産者 斉藤 園吉
- 4.通算成績 171戦20勝
- 5.取得賞金額 10,817,000円
- 6.性・毛色 牡 青
- 7.血統

ベル久宝

— ベル 久 都
— ベル 親 協



トヨタカ号

- 1.生年月日 昭和54年5月7日
- 2.生産地 十勝支庁 音更町
- 3.生産者 安海 吉雄
- 4.通算成績 133戦25勝
- 5.取得賞金額 32,883,000円
- 6.性・毛色 牡 青
- 7.血統

ベル系 晏 雄
旭川記念

— ベル 二世ロッシーニ
— ベル系 晏 勝

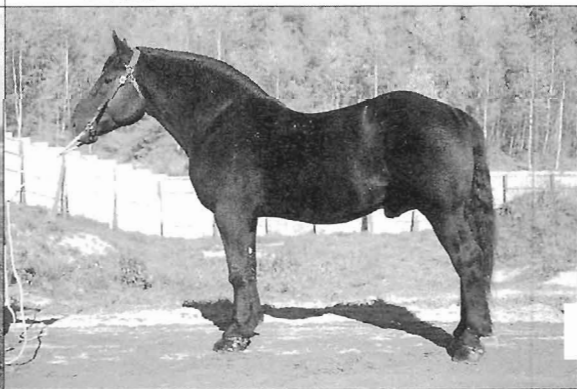


ベニキリン号

- 1.生年月日 昭和54年5月8日
- 2.生産地 網走支庁 遠軽町
- 3.生産者 佐藤 峯夫
- 4.通算成績 175戦23勝
- 5.取得賞金額 15,363,000円
- 6.性・毛色 牡 鹿
- 7.血統

半血 第二真朝

— ベル 楓 朝
— 半血 真 風

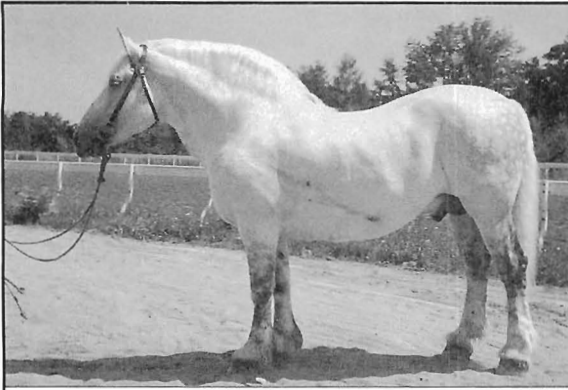


パワスキー号

- 1.生年月日 昭和54年4月13日
- 2.生産地 紋別市
- 3.生産者 近藤 健一
- 4.通算成績 97戦23勝
- 5.取得賞金額 17,257,500円
- 6.性・毛色 牡 青
- 7.血統

ベル系 勝 誉
ポプラ賞

— ベル系 フジトップ
— ベル系 勝 姫

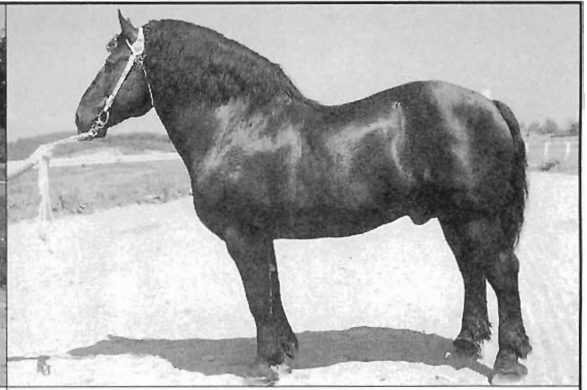


マルトセンプー号

- 1. 生年月日 昭和54年5月3日
- 2. 生産地 胆振支庁 早来町
- 3. 生産者 長谷川均
- 4. 通算成績 173戦18勝
- 5. 取得賞金額 17,858,000円
- 6. 性・毛色 牡 芦
- 7. 血統

半血 楓山

— ベルジ マルゼンストロングホース
— 半血 楓興

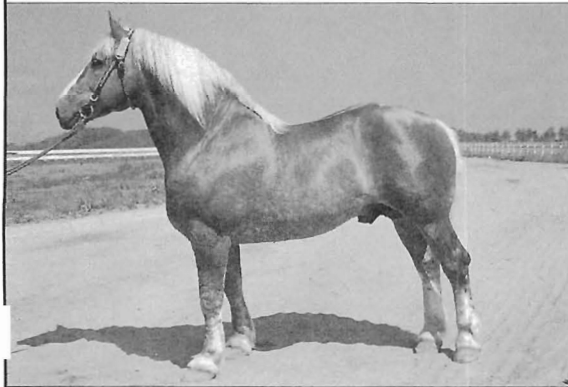


マツフジセンプー号

- 1. 生年月日 昭和54年3月22日
- 2. 生産地 空知支庁 沼田町
- 3. 生産者 山岡福一
- 4. 通算成績 163戦9勝
- 5. 取得賞金額 9,064,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

半血 福竜

— ベル系 フジトップ
— 半血 桜姫

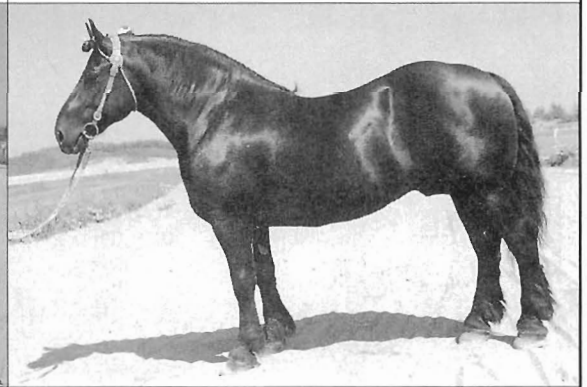


ミサワテンリュウ号

- 1. 生年月日 昭和54年4月16日
- 2. 生産地 釧路支庁 阿寒町
- 3. 生産者 城川修一
- 4. 通算成績 166戦18勝
- 5. 取得賞金額 11,047,000円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

半血 新修

— ベルジ コンエレガント
— 半血 新山



マルモキロク号

- 1. 生年月日 昭和54年4月3日
- 2. 生産地 日高支庁 平取町
- 3. 生産者 内藤正弘
- 4. 通算成績 168戦19勝
- 5. 取得賞金額 20,752,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

半血 青雄

— ベル系 オホーツク
— 半血 新栄



リュウダイヤ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和54年4月1日 |
| 2.生産地 | 十勝支庁 幕別町 |
| 3.生産者 | 近石 秀雄 |
| 4.通算成績 | 162戦18勝 |
| 5.取得賞金額 | 14,419,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡 栗 |
| 7.血統 | |

半血 義宝

— ベルジ ジャンデュマレイ
— ベル系 能星

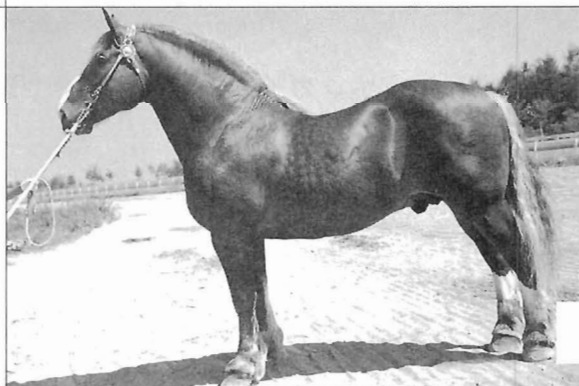


ヤクモチカラ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和54年4月14日 |
| 2.生産地 | 留萌支庁 天塩町 |
| 3.生産者 | 高橋 良徳 |
| 4.通算成績 | 174戦15勝 |
| 5.取得賞金額 | 14,008,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡 鹿 |
| 7.血統 | |

半血 塩風

— 半血 ダイニアンテン
— 半血 桜姫



ロイヤルホース号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和54年3月18日 |
| 2.生産地 | 空知支庁 北竜町 |
| 3.生産者 | 道下 羨三 |
| 4.通算成績 | 142戦22勝 |
| 5.取得賞金額 | 38,477,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡 栗 |
| 7.血統 | |

半血 呂雄
螢の光賞

— ベルジ マルゼンストロングホース
— 半血 呂博

平成元年度ばんえい競馬日程表(予定)

 岩見沢
  旭川
  北見
  帯広

4	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	⑳	24	25	26	27	28	㉑	㉒			
月																																	
5	1	2	③	④	⑤	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉓	22	23	24	25	26	27	㉔	29	30	31		
月																																	
6	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑫	19	20	21	22	23	24	⑮	26	27	28	29	30			
月																																	
7	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑬	17	18	19	20	21	22	㉕	24	25	26	27	28	29	⑳	31		
月																																	
8	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	㉖	21	22	23	24	25	26	⑰	28	29	30	31		
月																																	
9	1	②	3	4	5	6	7	8	⑩	11	12	13	14	⑮	16	⑰	18	19	20	21	22	㉗	㉘	25	26	27	28	29	30				
月																																	
10	①	2	3	4	5	6	⑧	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉙	23	24	25	26	27	28	㉚	30	31			
月																																	
11	1	2	③	4	⑤	6	7	8	9	10	⑫	13	14	15	16	17	18	⑬	20	21	22	㉛	24	25	㉜	27	28	29	30				
月																																	
12	1	2	③	4	5	6	7	8	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	㉝	25	26	27	28	29	30	㉞			
月																																	

平成元年度ホッカイドウ競馬日程表(予定)

 帯広
  旭川
  岩見沢
  札幌

4	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	㉑	24	25	26	27	28	㉒	㉓			
月																																	
5	1	2	③	④	⑤	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉔	22	23	24	25	26	27	㉕	29	30	31		
月																																	
6	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑫	19	20	21	22	23	24	⑮	26	27	28	29	30			
月																																	
7	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑬	17	18	19	20	21	22	㉖	24	25	26	27	28	29	⑳	31		
月																																	
8	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	㉗	21	22	23	24	25	26	⑰	28	29	30	31		
月																																	
9	1	2	③	4	5	6	7	8	⑩	11	12	13	14	⑮	16	⑰	18	19	20	21	22	㉘	㉙	25	26	27	28	29	30				
月																																	
10	①	2	3	4	5	6	⑧	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉚	23	24	25	26	27	28	㉛	30	31			
月																																	
11	1	2	③	4	⑤	6	7	8	9	10	⑫	13	14	15	16	17	18	⑬	20	21	22	㉜	24	25	㉝	27	28	㉞	30				
月																																	

平成元年 3 月

札幌市北区北10条西 4 丁目北海道畜産会館 2 階 (TEL) 代表747—5345